

31 2 3 4 5 6 7 8 9

方言録音資料シリーズ9

石川県羽咋郡志雄町萩市方言

国立国語研究所編

1968

も く じ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本 文	
萩市の昔と今	
① 修学旅行	5
② いまの若いもの	8
③ レング山の角力	10
④ 小さい時の小づかい銭	19
⑤ お祭りのこと	22
⑥ お寺の法事	27
⑦ オラッチャ・ヤーヤなど	32
⑧ 通学の服装など	39
⑨ むかしの進学	42
00 あいさつ	46
00 之乎路	59
02 イッタッタ・キタッタなど	64

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者 大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、金沢大学教授 岩井隆盛 が担当した。

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：石川県羽咋郡志雄町字萩市

2. 収録地点の概観

萩市は農村であるが、志雄町の中心である子領に接し、かつて(安永年間)子領をも支配する十村がこの萩市にいたことのある部落である。それはともかく、金沢～七尾、羽咋～氷見の交通の要地である。とくに羽咋(能登)～氷見(越中)の船橋は家持の時代すでに開けていたようである。

3. 収録した方言の特色

萩市の言語は、北陸西部とくに能登・越中の方言である。

音声では、シとス、チとツ、ジとズ、イとエ、サ行とハ行、ワとバの混同のほか、シ、クなどもある。文法は近畿に近ずるものが多い。しかし北陸ふうな単体助詞のガ(の)や、越中と似た敬語のイッタク(行かれた)なども目につく。

言葉では、能登ふうなベッチャ(ちがう、いいえ)、クダイ(下さい)、ハン(程量)がこのあたりからはじまる。ヤモド(たくさん)は加賀の北部でも使うが、ケンケ(くれませんか)はこの特徴かと思われる。なお古風なベッカイ(面倒・世話)などがある。

4. 地点選定の理由

ここは能登の南部にある。東は越中(富山県)に直接つづいている。南は押水町一つをへだてて加賀(石川県)である。地域的には、加賀・能登・越中の接点であり、能登ふうな方言はここからはじまるともいえる。

表記について

(指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号)

字母・補助記号の種類	語例と意味	(標準語訳)	音価についての注記
o	horeo	(それは)	eo
+	s+ranzo	(知らないぞ)	+は中舌

1. horeoの後部はreoに近いと思う。それはともかくreo・kooなどは1音節である。

2. s+ranのs+ようなものをsuのように表わしたところがあるかも知れない。

以上のほかはすべて指定の表記かと思う。

萩市の昔と今

録音日時 1967年8月21日

録音場所 石川県羽咋郡志保町

宇奈岐市坂本貞夫氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
D	土一登美	女	明治35年生	船の製造販売	石川県羽咋郡志保町宇奈岐市だけ
S	坂本貞夫	男	昭和18年生	小学教師	同上、ただし昭和42年4月から羽咋郡富来町にも住む
I	岩井隆盛 (編者)	男	明治42年生	大学勤務	0~12才羽咋郡水町その後、金沢・東京・金沢・石川県河北郡津幡町

- 解説:
- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 修学旅行 | 7. オマツチャ・キニヤなど |
| 2. いまの若いもの | 8. 通学の服装など |
| 3. レング山の角力 | 9. わかしの遊学 |
| 4. 小さい時の小づかい銭 | 10. あいさつ |
| 5. お祭りのこと | 11. 之手路 |
| 6. お寺の法事 | 12. イッダツタ・キダツタなど |

(1) 修学旅行

- (1) oba: cjan wakai tokini: omosjō-
 志の おばあちゃん、若い ときに おもしろ
 kaqta koto nanka naika teba:ja wakai tokini
 かった ことが なにか ないか というのだ わかい ときに
- D omosirokaqta kotonen
 おもしろかった ことね
- (4) on musume zidaidemo joisi
 うん、むすめ 時代でも よいし、
- D hō:janō: inan iciba: kono kio:kuni nokō:toru
 そうだね、 まあ いちばん この 記憶に 携ってろ

kotowan mukasi zinzjo: ande man rokunen
ことは わかし 尋常(小学の) あれで まあ 六年

desitakane warazi haiteen hakama haite
でしたかね わらじ はいて はかま はいて、

hosite hemini made aruite hosite zuqto
そして 水見に まで あるいて、 そして ずと

husikini iqte iqpaku site hosite kaeqte
伏木に 行って 一泊 して、 そして 帰って

kitadaa iciban hore da kiokuni nokoqtorubai⁽⁶⁾
来たのが いちばん それに 記憶に 残ってるのだ

S rjoko:ke⁽⁷⁾
旅行ですか。

D rjoko
旅行。

S hu:n hore⁽⁸⁾ cincjai tokijarone⁽⁹⁾
ふうん、 それは 小さい ときだらうね。

D zinzjo goneka rokunenjaqta rokunen koto
尋常 5年か 6年だった、 6年 高等(小学)

icinenimo naqtoqtakane:
1年にも なってたかね。

S hu:n hon toqjja hikawajane gaqko
ふうん、 その ときは 穂川だね、 学校は。

D hikawaja hositara hono sudataon sjasun-
穂川だ、 そしたら、 その すがたを、 写真、

ni ucuite ima miru cju:to donna jokaqtamo
に うつして いま 見る というと、 どんな よかったも

siren tete omo dajaredo sono zibunnaan
知らない と 思うのだが、 その ころは、

sjasinmo nasine
写真も ないしね。

S hu:n hositaraan ima mukasi omosirokaqta
ふうん、 そしたら、 いま わかし おもしろかった(ことは)

hono hondake dakeke mada nanka hono kawaqta
その それだけ だけでずか、 ほかに なにか その 買った、

kotoo nakaqtake
ことが なかったですか。

D hojane kawaqta ju:ta tete imamitai konnaan
そうだね 買った(と) いった、 といつても)いまのように、 こんな、

..... aqci koqcto rjoko:ni aruita cju:to koto-
あちら、 こちらと、 旅行に 歩いて、 という、 こと

mo nasi taisitanen mukasi zinzjo nine dura-
も ないし、 でした(ことは)ね、 わかし、 尋常、 2年くら

ino tokika kanazawamade sju: daku rjoko:ja
いの ととき、 金沢まで、 修学、 旅行だ、

tete iqte kita kotomo oboctorusi zisecu-
といつて、 行って、 来た、 ことも、 おぼえてるし、 時節、

wa cigote anta kono undokai tokane man
が、 ちがって、 あんた、 この、 運動会か、 とかね、 まあ、

roqko: joqtene undo:kaika he:kara roqko⁽¹⁰⁾
6校、 寄つての、 運動会か、 それから、 6校、

joqte kono ano nanjacja rensju:kaika
寄つて、 この、 あの、 何だよ、 練習会(=卒業会)か、

man sonna koto da gaqko: no gjo:zi tosite
まあ、 そんな、 ことが、 学校の、 行事、 として

aqta monja sakai: honna ima wakai sito
あった、 ものだ、 から、 そんな、 いき(の) 若い、 人の(なづ)に、

joqte konna koto sitatokanen sonna kotoo
集まって、 こんな、 こと(を) したとかね、 そんな、 ことは、

anta zjenzjen nai monno un honna muka
あんた、 全然、 ない、 もの、 うん、 そんな、 わか(し)、

konde man mukasito sennaranjaroo jonzju:-
これで、 まあ、 わかしと、 しなくてはならないだろう、 40

nen karekore gozju:nenkara cjoqto tacu
年、 あれこれ、 50年から、 すし(多く) 経つ

monja sakai un
ものだ から、 うん。

(2) いまの若いもの

S hositsraan imano wakai monna orujaro ancja-
そしたら いまの 若い ものが いるだろう アンチャ-

nnā orujarō baine areo nanka do:ka omowanke
ンが いるでしょう。 あれは なにか どう(と)か 思いませんか。

nanka omo: kotoe nanka naike
なにか 思う ことが なにか ないですか。

D imano wakai mon
いまの 若い もの(について)か。

S imano wakai sito on
いまの 若い 人のこと、 うん。

D a: siyasena ziseccuni n konde mebumaretoru-
ああ しあわせな 時期(になり) これで めぐまれるの

wato omote omō:waine un hojaro
わと (思っ) 思いますね。 うん そうだろう。

S un mukasito kurabete donna tokoo joiwani
うん、 わかしく くらべて どんな とこが よいのに

naqtorune wakai monna
なってるね 若い ものは。

D man riko:janen keqkjoku hojaro zibun-
まあ かしこいね。 つまり、 そうだろう、 自分

de zibunno isio to: su cju: kotowa riko:ni
で 自分の 意志を 通す という ことが かしこく

naqtaade naikā siran mukaqsja antā
なったので ないか しら。 わかしは あんた

ojano ju:narijoro oja'wa ko:ja tete ieo
親の いうまだろう。 親が こうだ と いえば

kimono icimaidemo ojano ju:mama hojaro
着物 1枚でも 親の いう通り、 そうだろう。

nan siyocu honna ojano hantai suru monno
なに ひとつ そんな 親の 反対 する ものを

ko:temo morowarensi morota kotomo nakaqta
買ってても 買われなし、 (買って)買った ことも なかった

hosite hosii kimocinimo naranandajaro
そして 欲しい きもちにも ならなかっただろう。

imano kodomo minna konde man kaqtena muka-
いまの 子供は みんな これだ、 まあ 気ままな(もので)、 わか

sino monkara nabameqtojazo kaqtena kima-
しもの から なめるとぞ、 勝手な 気ま

mana konde do ieo joika atamaa joku naqte
まな、 これだ、 どう いえば よいか、 頭が よく なって

riko:na kodomon naqtoru baka soko'wa man
かしこい 子供に なってるのか、 そこが まあ

konde cjoqto handan cuka'nen hojaro
これで ちよっと 判断(が) つかないね、 そうだろう。

kimamana baka riko:na baka hojaro keqkjoku
気ままなのか かしこいのか そうだろう、 つまり。

S un oba:cjan motomoto oicini oqta'waine
うん、 おばあちゃん 元から 萩市に いたのですね。

D an oicuni umareta'ai
ああ 萩市に 生まれたのだ。

S hu: motomoto aqkona ucike
ふうん、 元から あそこの 家ですか。

D un aqkona ucija
うん、 あそこの 家だ。

S hu: otoqcan otoqcanmo oideru
ふうん、 お父さん お父さんも おいで。

D otoqcan jo:sini kitaqta'waja
お父さん(は) 貴子に 来られたのだ。

S hu:N hositarā jaqpari ošicine hitojaro
 ようん そしたら やはり 萩市の 人だらう。

D u:N hojahoja ošicuno hitojaredo horemo to:-
 うん そうだそうだ。 萩市の 人が、 それも ずつ

si ošicini oranŋjaqtajaro ----- wakai toqja
 と 萩市に おられなかつただらう。 若い ときは

tabie detoqtaqtakeni
 旅へ 出ておられたか。

S hu:N hositarāan cjoqko ju:qkuri sjabeqte
 ようん そしたら(=とところで) すこし ゆっくり(と) 話して

hosiine
 欲しいね。

D a:N ho:ka
 ああ そうか。

S on ----- hanasino tociju:jakedoŋn hurahura:qto
 うん 話の 途中だめ フラフラと

sjabeqtara nanka
 話すと なにか-----

D an ho:ka ----- hu:N
 ああ そうか。 よん。

(3) レング山の角力

S hositarāan renŋejamano sumo: cju: monna
 そうしたら、 レング(蓮華)山の すもう(角力) という ものは

jaqpa-zu:qto mukasikara aqtaŋake
 やはり ずつと わかしから あつたのですか

D zu:qto mukasikara aqtaŋai
 ずつと わかしから あつたのだ。

S cinjai toki: donna monjaqtaine
 小さい(子供の) とき どんな ものでしたか。

D oraqjano kodomono zibun kara aqtaŋai mada-
 オラッチャ(私の)の 子供の ころから あつたのだ。 まだ

mada se:daijaqtawane ----- sumo:wane ----- horeŋa
 まだ(もと) 盛大でした。 角力はね。 それが

man gjo:zi hono siomacino gjo:zi man mukaq-
 まあ 行事、 その 志摩町の 行事 まあ mukaq-

sja siomurajaqtane ----- hono gjo:zino sitocu-
 しは、 志摩村だったね、 その 行事の 一つ

to site kosite nanŋjuneŋn cuzuitoru monjara
 と して ころして 何十年 つづいてる ものや、

----- hjakuneŋmo cuzuitoqka horee siraŋzo -----
 ----- 100年も つづいてるか それね 知らないぞ。

oraqjano kodomono zibun kara ano sumoŋa
 オラッチャの 子供の ころから あの 角力が

aruŋaja -----
 あるのだ。

S mini iqta monke jaqpa
 見に 行った ものですか、 やはり。

D mini iqtawaine anta ----- sju:no sumo: cju:ta-
 見に 行ったですね、 あんた。 子供の 角力 といつた

ra anta zu:qto jamano ho:kara mukasijazo-----
 ら、 あんた、 ずつと 山(村)の ほうから、 わかし(は)だぞ、

bento moqte minna anta sju:no sumo cju:tara
 べんとう 持って みんな あんた、 子供の 角力 といつたら

se: monosuŋoi se:daina monjaqtane -----
 盛(大)か、ものすごい 盛大な ものだったのです。

jamaŋakara bento moqte minna kitasinen -----
 山村から べんとう 持って みんな 来たしね。

hosite minna anta honŋoni sju:no smo: o ma-
 そして みんな あんた、 ほんとうに 子供の 角力を 待

c+kane toqtawaine nanka jono gjo:zisa nai
 ち兼ね ていたですね。 なにか(=なに)もほかの、 行事が ない

monja sakai hakuino sumo:ja sju: no sumo: ja
ものだ から、 羽咋の 角力や 子浦の 角力が

kondene: mono sutoi minna kodomodemo wakai
これだね、 ものすこい(=ものすこく) みんな こどもでも 若い

mondemo jorokonda monja
ものでも よろこんだ ものだ

S hu: N jo: an' tokiniin cjawanuritoka honna
ふうん よく あの ときに 茶碗売りとか そんな

mon' kitogitarone
もの(が) 来ていただろうね

D kitotage mukasikara cjawanuri cjawanurito
来ていたのです。 むかしから 茶碗売り 茶碗売りと

karakasaurija hosite zu:qto anta aqko
からかさ売りが、 そして、 ずっと あんた あそこは

cjawanuridemo takusan kitene karakasaja-
茶碗売りでも たくさん 来てね。 からかさ屋

ja cjuve takusan aru monno ima karakasa-
だ といえは たくさん ある から (=来ているから)、 いま からかさ

uridomoo mitai cju:temo naijaro minna
売りなどは 見たい といっても ないだろう。 みんな

ko:moriDasaja sakai un
こうもりがさだ から、 うん。

S hu: N hositara minna ko:taqta monjarone
ふうん、 そうしたら みんな 買われた ものだらうね。

cjawan'o
茶碗を。

D minna ko:tawane anta karakasaurai anta
みんな 買ったですね あんた、 からかさなど あんた、

icinen sasubao ko:gaicja hojaró hositara
1年(間) さす(使う)のを 買うのだよ、 そうだろう。 そうしたら

hitorini iqkai zucu minna konna konna gaqko-
ひとりには 一本ずつ、 みんな こんな こんな(けさい) 学校

no kodomoo mo:suni ojobazu man hontoni hi-
の こどもは 申すに およぼす、 まあ ほんとうに ひ

tokazukizucu minna zju: nin oreo hontoni
とかずきずつ、 みんな 10人 おれは、 ほんとうに

ziqon ko:ta monzja ucira un ima kono
10本 買った ものだ、 うちなど(で)、 うん、 いま この

ko:moriDasani naqtekara kasaurimo koshi
こうもりがさに なって、 から、 からかさ売りも 売ないし、

zenzen honna ko: hucju:mo iran nandoki-
全然 そんな 買う 必要も 要らない、 何時

demo kawareru sakai hairone
でも 買われる から そうだろうね

S un motomotoo dokojarani ano sitani aqtabane
うん、 元元は どこやらに あの 下に あったんですね

D dokoni
どこに。

S jonejamano jokono ucine ano jolcno ano
米山の 横の 家ですね、 あの 横の あの

hirobani
広場に。

D mukasikara asokoja
むかしから あそこだ。

S hu: N ima anmari hositara se:daide naijaro
ふうん、 いま あまり そうしたら 盛大で ないだろう、

ano aremo
あの あれも。

D ima se:daide nai hosite cjoqto ko:ko:zumoba
いま 盛大で ない、 そうして、 ちょっと 高校角力が

icinenmo ninenmo haiqtajaro icinenka
1年も、 2年も 加わっただろう。 1年(だった)か、

arekaranen taisita kotoo naijaro sorekara
あれはね、 みんな、 たいした ことは、 ないだろう。 それから

kono rjoko: rjoko: tete takusan detekita
この 旅行 旅行 といって たくさん 来て来た

sakaija
からだ。

S un wasiramoon ci:sai toqkja sumo: o omoqsjo-
うん、ワシウも 小さい ときは 角力は おもしろ

kaqta waine minna miseo: takusan kitoqtasi
かった、 ですよ。 みんな 店が たくさん 来ていたし、

hairo cjawamuriteka anna mon ko:takedo
そうだろう(=わ) 茶碗売りとか あんな もの 買ったが (いや)

mitoqtakedo hojaro
見ていたが、 そうだろう(=わ)。

D ima taisita monna oranjaro ---- na: n sju: no
いま これはという もの (来て)いないだろう なにも 子猫の

sumo: ja tete na: n iku himo aqsi ikan teki
角力だ といって(も) なにも 行く 日も あるし、 行かない とき、

ikan tosimo aruwa ucinimo
(いや) 行かない 年も あるわ、 (私の) 家でも。

S un nanka cujoi somotoridemo oqta monkane
うん、 なにか 強い 角力取りでも いた ものですか、

siono sumotoqrja
子猫の 角力取り(に)は。

D honde zimotoni oqta sakaide naika hono
それで 地元 いた からで ないか、 その

honzo: sanjano ---- he: kara ano ima hakuini
ホンゾウさんだの、 それから あの いま 羽根に

kitajama cju: hito sumo: torijaro ---- hojaro
キタヤマ(北山) という 人(が) 角力取りだろう、 そうだろう

he: kara hjo: doni otoma cju: hitojano honna
それから 兵庫に オトマ(晋三) という 人だの、 そんな

hitoraba oqta waine hono zimotoni taniarasi-
人たちが いた、 ですね、 その 地元 には タニアラシ(谷

no
風)の-----

S kinzomaka
キンゾウマ(金蔵ま)か、

D kinzoma ---- aqkojaro honde kondee: sumo: ja
キンゾウマ、 あそこだろう、 それで、 これで 角力が

se: daini naqtoqtade naika sibirakune: ----
盛大に なっていたので、 ないか、 しばらく(の間)ね、

mukaqsja aqcinimo sumo: koqcinimo sumo:
むかしは あちらにも 角力、 こちらにも 角力、

ima anta sonna siro: tono sumo: mirujori
いま あんた そんな 業人の 角力 見るより(も)、

anna antane: riqpana sumo: miru monja saka-
あんな あんたね、 立派な 角力 見る ものだ から、

ie: na: n siro: tono sumo: domo mondaide nai-
すこしも 業人の 角力など 問題で ない

bade naika siran ---- un
ので ないか、 しら、 うん。

S hositara jaqpa sjazikidemo jaqpa kumdee:
そうしたら やはり (角力)のさじきでも やはり 組んで、

anna: ja: kundaqrarobaine
あんな(が) よく 組んであてよう。

D sanziki kunde aruwaine ne: anta sjo: daiken
さじき(は) 組んで ありますよ、 わえ、 あんた、 招待券(を)

kibaqte kihu site takusan morota uciwa
くばって(買って)、寄附 して たくさん (宿習を)買った、 家は

cjanto aqkoe sanziki abete hojaro ---- hosite
ちゃんとも あそこへ、 さじき(に) 上げて、 そうだろう、 そうして

minna taibu sita monjacja
みんな 待遇 した ものだよ。

S hu: n hositara sumo: ni kaqtara siono onmjasar-
ふうん、 そうしたら 角力に 勝ったら 子猫の お宮さ

Ne ikubaineN
んへ 行くのだね。

D ho:ja ho:ja omauri site
そうだ そうだ、おまつり して。

S gohe:ka nanka moqte
ごへいか なにか 持った。

D gohe: kasuite ---- ho:suqju:to hono sono
ごへい、かついで、 そうするというと、 その、 その

kaqta toko⁵⁵ man komo hanazumo: tete hana-
勝った とこは、 まあ、 これ、 ハナ角力、 といつて、 ハナ

zumo: sitari ande jo: jowaqta⁵⁶bai minna
角力(を) したり、 あれで、 困ったのだ、 みんな

hanazumo: suru toqkja mata kihujaro: o tenu-
ハナ角力 する ときは、 また、 寄附だろう、 手ぬ

guidemo hurusikidemo minna komde kibaqte
ぐいなり ふろしきなり みんな、 これ、 くぼって

kuqsaki: hono burakuno nanto ju:temo cuzui-
来るから、 その、 部落の(一部落) 何と、 いても、 つづい

toqsii: ho: surucju:to koqcini cjanto site
ているし、 そう、 するというと、 こちらに(こちで)きちんと、 して

minnan⁵⁷ a⁵⁸ennaran⁵⁹baine ---- honna mo⁶⁰ moro:-
(世帯)見なくてはならない、 (何かを)おぼなくてはならないでしょう。そんな、 もの(を) 貰。

ta okaesini
た、 おかえしに。

S honde ano ano ano dandarasakano aqkoni
それで、 あの、 あの、 あの、 ダンゾウ取の、 あそこ

aqtaba nanjaine
あったのは、 何ですか。

D asoko hanazumo honzjosan doqkano seki toq-
あそこ(は) ハナ角力、 ホンゾウさん(が) どこかの、 (角力)闘を取

tee ---- hosite hanazumo sita⁶¹uairo (S ho:N)
て、 そうして、 ハナ角力(と) したのだろう。

keqkioku on
つまり、 うん。

S hu:N hositara taniarasino taniarasite ju:ta
ふうん、 そうしたら、 タニアラシの、 タニアラシと、 いった

sumo: nanka heja mitaina mono aqtabane
角力(取り)は、 なにか、 部屋、 のような、 もの(が) あったのですか。

kobundomoe oqtabake
子分どもは、 いたのですか。

D sa: kobundomoe taisita oran⁶²ade naika siraN
さあ、 子分どもは、 大した(ものが) いないので、 ないが、 しら

S hondemo kinzoma kinzoma ----
それでも、 キンゾマ、 キンゾマ、

D ju:taga dekai konna hitoja ---- curanukino
(と)いったの(は) 大きい、 こんな、 人だ、 フラヌキの、

otoqcanmo sumo: torijaqtazo ---- deqkai hono
オトツファンも、 角力取りだったぞ、 大きい、 その

hitokoso sumo: torijaqtawa ---- jeno honzjosan-
人こそ、 角力取り(にふさわしい人)だったね、 ほかの、 ホンゾウさん

ragcja asimotoemo ikan
たちは、 足死へも、 終よばない。

S hu:N jaqpa kobunka nanka oqtejane
ふうん、 やはり、 子分、 なにか、 おられるのですか。

D ande oqtabajaro⁶³bai kokono minna komde hjo:-
あれで(まあ) いたのだろうよ、 ここの、 みんな、 それ、 兵

pono otomajano ---- ano honzjosanjano minna
郎の、 オトマだの、 あの、 ホンゾウさんだの、 みな

ande taniarasino, kobunni naqtoqta⁶⁴baka ----
あれで、 タニアラシの、 子分に、 なっていたのか。

hono curanukino kobun ju:tara taniarasiba
その、 フラヌキの、 子分、 (と) いったら、 タニアラシが

naqtoqta⁶⁵baka
なっていたのか。

S hu:n honnara taniarasino kobunni mata og-
ふうん それなら タニアラシノ 子分に(→子分が)また いる

cju wakeja hojaro
という わけだ、 そうだろう。

D ho:suree ano honzjosaNra naqtoqtaBajaro pai
そうすれば あの ホンジウさんら(が) なっていたのだろうよ。

un
うん

S honnara aqkoni sekihimitaiwa taqtorujaro
それなら あそこに 石碑のようなものが 建っているだろう。

ano
あの

D are: taniarasijaro
あれは、 タニアラシだろう。

S taniarasika are
タニアラシか、 あれ。

D curanukinoŋamo taqtorujaro
アラヌキのものも 建っているだろう。

S hontoke curanukino namae nanjaine are.
ほんとうですか、 アラヌキの 名前(は) 何ですか、 あれは。

D curanuki tete ima naqtoruu
アラヌキ と いま なっている。

S sumo:torino namae
角力取りの 名前が(ですわ)。

D un ----- curanuki
うん、 アラヌキ。

S bukue anna do:site anna tokoni isino man
ボクは あんな どうして あんな ところに 石の まあ

sekihi taqtoru sumo:tori-----
石碑(が) 建っている、 角力取り-----

D rennejamano tokode ----- (S un un) han aqkoni
運筆山の ところで、 はあ あそこに。

S hu:n aree nanka do:ja sinda monde taqtoruba-
ふうん あれは なにか、 どうだ、 死んだ ものだから 建っている

kaisekihike ande kinenke
の(おは)石碑ですか、 あれで 記念ですか。

D ano karatojamae iku to minna sumo:torino
あの 唐戸山へ 行くの、 みんな 角力取りの

sekihiwa taqtorubaine ----- are sindekara
石碑が 建っているのだね、 あれ、 死んでから

tateta monka ikitoteno aidani tateta monka
建てた ものか、 いきておられる 間に 建てた ものか、

soree wakaran ----- hairu -----
それは、 わからない、 そうだろう。

(4) 小さい時の小づかい銭

S oba:cjanra hon toki cincjai tok: ikurahodo
おばあちゃんら、 その、 とき、 小さい、 とき、 どれほど(小づかいを)

morote iqtotaine tada mitoqtaŋake
買って 行ってましたか、 ただ、 見ていたのですか。

D sumo minika
角力、 見にか。

S un goziqsenka nanka kanedemo moroteqta mon-
うん、 50銭か、 なにか、 金でも、 買って行った、 もの

ke
ですか。

D anta goziqsendomo morawanjaroŋaine ----- hoja-
あなた、 50銭なんか、 買わないでしょう、 そうだ

ro: (S un)
ちう。

I goziqsen daimaija monne
50銭(は)、 たいへんだ、 ものね

D daimaija ---- ucinoo: fo: cjanraa: ---- zinzo
たいへんだ。 家の 父ちんらは 尋常

jonenka sannnenno toki wakurae iqtawai sju:-
4年か 3年の とき 和倉(温泉)へ 行ったのだ。 修

gakurjoko:ni ---- okaneo zju:gosenjaqta toine
学校行に。 お金を。 15銭だった。 というね。

---- orabaine (S on on) hositarane: gosjen
オラがだね。 (S on on) そうしたらね 5銭

gosjen ano ojwo ko:te kitasi ---- zjuqsen
5銭 あのお酒を 買って 来たし。 10銭

mameame ko:tara cukot okanesa nakaqta toine
豆餡を 買ったら、 使う お金が なかった。 というね。

---- jo: honna koto jute o:warai surugai
よく そんな こと いて 大笑い するのだ。

S honna koto surja macurina mada nannan ----
そんな こと すれば、 まつりは まだ いやいや。

hōrekosa: zjuqsen nara: zjuqsen guraijane
それとそは 10銭なら 10銭ほどだね。

ju:te mirja sukunakaqta
いて 見れば すくなかった。

D oraqcjano toqkja ja: z+qsendomo morawanbade
わたしらの ときは いや 10銭なんか 買わないので

naike ---- gosjenmo morotaka man sekino jama
ないですか。 5銭も 買ったか まあ せいぜい

z+qsenmo morota monkane ano wasuremo senda
10銭も 買った ものかね。 あの 忘れも しないが

(S+U) ko:to icinenka ninenno toki tojama-
高等(小学の)1年か 2年の とき 高山

nii: hakura nkaija aqtawai (S+U) nanaziq-
に 母兄金が あったわい。 70

senja cibai ---- kwaihi a:man kisjacinkara:
母だ というのだ。 金貸(が) あ まあ、 汽車賃から。

nankara ---- nanno hositara iku monna oranan-
なにかから、 何の(ことはない)そうしたら 行く ものが いなかった

dazone (S ho:n) oraqcjamo ika oraqcjamo
ですね (S ho:n) わたしらも 行かない、 わたしらも

ikan cju:ta bai nanaziqsende
行かない といいたのだ 70銭(のことで)。

S imani suree deqkai kaneja cju wakejane cjo-
いまいに すれば 大きい 金だ という わけだね。 ちよ

qto tee: denanda cju wakejarone honna dekai
と 手が 出なかった という おけだろうね。 そんな 大きい

kane
金(では)。

D hono kodōmoni omokio oitoranbade nakaqtaka
その、 子供に 重点を おいてないので なかったか

siran mukaqsja ---- imawa kodomoo konde dai-
しら、 むかしは。 いまは 子供を 連れて 大

zini site sodateru ziseqjaredo mukaqsja
期に して 育てる 時期だが、 むかしは

anta kodomoo tada tabesaito honna taisita
あなた、 子供を ただ たべさせて honna taisita

kjo:ikumo suqcu kotomo nasi (S+U) tada
教育も するという ことも ない、 ただ

sodaqtabade naike konde ---- hondemo era:i
買ったので ないですか、 これも、 それでも 偉い

benkjono dekiru sita: dekitasi dekin monna
勉強の できる 人は できたし、 出来ない ものは

dekinanda dajakedo anta tokono otoqcanra
出来なかったのだが、 あなた ところの お父さんら(は)

monosuboi sju:saijaqtazo hontoni
ものすごい 秀才だったぞ、 ほんとうに。

S nan ju:torubaine
なにを ーいっているのですか。

D oraqqa saNSu: naraini iqte do:kjuse nagaja
 わたしらは 算数 歌に 行って 同級生 なのだ
 kono hitono otoqcanfo orato hositewa saNSu
 この 人の お父さんと わたしと、 そうしては 算数
 naraini iqtewaan osiete moqtawaine (S hu:N)
 習いに 行っては 教えて 貰ったですね

(5) お祭りのこと

S hositara ho:zija hondake jaqpa ano: ni:ni-
 そうしたら (寺の)法事は それだけ やはり あの にぎ
 wasikaqtakedo macurja donna monjaqtaine
 やかだったか、 祭りには どんな ものでしたか
 D macurimo jorokondawaine
 まつりも うれしかったですね
 S opicini macuri taisita kotoo naijorobaine
 萩市の まつり(は) 大した ことが ないでしょうね
 D hoja mukasikara ano torijaro ima mitaibairo
 そうだ わかしから、 あの 通りだろう、 いま ゐたいだろう
 S siono macurja jaqpa omqsjoigade naiakai-
 子達の まつりは やはり おもしろいので ないです
 ne opicini kurabere
 か、 萩市に くらべれば
 D omqsjoi tete anta sisimaiga oi sakaijaroa-
 おもしろい といって あなた、 獅子舞いが 多い からでしょう
 ine hojaro
 そうだろう
 S un (D un) waqsja siri cundaqte iqtaaikedo
 うん、 クレは 民(に) つれだって 行ったのだが
 opicino macurja honna cundaqte
 萩市の 祭りは そんな つれだって……

D aruku hodone oran monno (S on) anna monna
 歩く ほどに いない もの、 あんな ものは
 kodomono sisimai dakejaro: o (S on) hosite
 子供の 獅子舞い だけだろう、 そして
 na: N honna taisita kotomo nai baisi ne
 なにも、 そんな 大した ことも ないのだし、 ね
 (S un) hojarone
 そうだろうね

S honnara mukasikara jaqpa amejano uee adaq-
 それなら わかしから やはり 船屋の 上へ あがっ
 toqta monke ano areo
 ていた ものですか、 あの あれが

D mikosusanka (S on) honono mukasja asa-
 る興さんか、 ほんとの わかしは あが
 ranandaredo ande hojane jaqpa avarikakaqtara
 らなかったが あれで そうだね やはり あがりはじめた(は)
 dondake hodo tacuka siran ako zu:qto huzino
 どれだけ ほど 経つか したら、 あそこ ずっと 富士の
 jamani sitene denkide (S hu:N) okajamano
 山に してね、 電気で、 岡山
 otoqcanra oqtene tokijaqtawane ano zibuNni
 お父さんら(の) おられる ときでしたわ、 あの ころに
 ano zu:qto tasjokara mierubani site denkide
 あの ずっと ほか(の部落)から 見えるのに して 電気で
 huzisanno kono kataci sitene hutari site
 富士山の この 形(を) つくってね、 二人 で
 keqko se:daini sitoqtaBaja ima na: N honna
 かなり 盛大に していたのだ、 いま なにも そんな
 koto sjentö
 こと しないです

S okajamano ozizi obaba tokenone
 岡山の おじいさん、 おばあさん ところのね

D obabano ozizi
おばあさんの おじいさん(オババの主人)。

S ozizine
おじいさんね。

D un ano hitoo giiko sitoqtaqta zibunni wakai
うん、あの 人は 銀行(を) しておられた ころに、 わかい
tokine (S ON) cjakto hono huzisan kqsja-
ときね (S ON) ちゅんと その 富士山(を) こしら
etene donna kireni site aqtacja
えてね、 とても きれいに して あったよ。

S motomoto hositara jaqpa aqko aBaranandaBane
元元(は) そうしたら やはり あそこは あがらなかったのね。

saisjoo ano
はじめは あの。

D aBaranandaBai hUN akibasan aqtaBajaredo
あがらなかったのだ。 ぶん アキバ山(秋葉山) あったのだが。

hazime aBaranandaBaja ci:sai konna odo:ho
はじめは あがらなかったのだ。 小さい こんな お堂の

akibasanjaqtaBai ima annabani tatetajaro
アキバ山だったのだ。 いま あんなのに 建てただろう。

cjoqto o:kiiBani (S ON ON) cincjai honto-
すこし 大きいのに。(はじめは)小さい ほんと

ni: akibasanjaqta
うに アキバ山だった。

S obaba mukasimo kawara to:cjan nanmo ano
オババ わかしも カワラ 父ちゅん(ほかは)なにも(せず)あの

kantanna sisimai jaqtoqtaBake.
かんたんな 獅子舞い(を) やっていたのですか。

D sisimaika (S ON) ON aree areote arejaBai-
獅子舞いか。 うん アレア アレア、と(いう)あれだよ

ne miqtoko naijaroBaine
ね 見るところ(は) ないでしょうね。

S na: N zenzen miqtoko naisii; mukasikara aimo
なにも まったく 見るところ(は) ないし、 わかしから すこしも

kawarazu gennaitokaa: anna tada gennaitoka
かわらないで グンマイとかか あんな ただ グンマイとか

sinnaitoka nanka macurino hurikata arujaro-
シンマイとか なにか まつりの 舞いかた(が) あるで

Baine (D UN) mukasikara jaqpa annabaine
じょうぶ。 わかしから やはり あんなのだね。

D mukasikara narote kaeru cju: kotomo nasi
わかしから (どこかから)習って 舞る という ことも なく、

ano msmani site mukasino torini jaqtoruBai
あの ままに して わかしの 通りに やっているのだ。

(S hu: N) un
うん。

S misedemo jaqpa kita monke siobaqakane
店でも やはり 来た ものですか。(来たのは)予備だけかね。

D mise uqria onmjasanno huci: (S dakeke
店 売りは お宮さんの うちも…… (S dakeke
hu: N) honna taisita kotomo naicja kokorane
ふうん。 そんな 大した ことも ないよ、 このあたり(は)ね。

S un hositaraa: macurijori sumo: no ho omoq-
うん、 そうしたら まつりより 角力の 方が おも

sjokaqtaBade naidakaine
しろかったので ないのですか。

D hoja hoja sumo: o omoqsjoiwaine
そうだ、 そうだ。 角力は おもしろいですね。

S ne: (D UN) wasirani sitaqte macurijori
ねえ、 ワシラに しても まつりより

sumo: no ho omoqsjokaqtasine
角力の 方が、 おもしろかったしね。

D hojarone hakuino sumoni iqta monja mukasi
そうだらうね。 羽咋の 角力に 行った ものだ、 わかし(は)

(S un) bento moqte (S un) hosite minna
べんとう(を)もって、 そして みな

asa nanka imamitai baqsie aru koqcja nasi
朝 など いまのように バスが ある ことは なく、

(S un) minna aruita monja
みな 歩いた ものだ

S ho:jane jaqpa siono ho:zijori jaqpa hakuimo
そうだね、 やはり 子供の 法事より やはり 羽咋の

ho:ziə omoqsjokaqtasine
法事が おもしろかったしね。

D omoqsjokaqta
おもしろかった。

S cjoqto mata uejaqtasine
すこし また(羽咋は)上だったしね。

D so:ja so:ja honde hontoni mukasi tete tai-
そうだ、 そうだ、 それで、 ほんとうに、 わかし、 という、 大

sita k'tomo kondene tanosimimo nakaqtašaja
した、 ことも、 これだね、 たのしみも、 なかったのだ

(S un) ima tesijorimo wakai monmo rjoko:
いま、 年寄りも、 若い、 ものも、 旅行

rjoko: tete hontoni konna tanosimina sjaba-
旅行、 という、 ほんとうに、 こんな、 たのしみな、 世の中

ni cjoqkodemo oranja donnaranto omotoruajja
すこしでも(生きて)いたくは、 どうにもならないと、 思っているのだ

(S un) sinare n cibai mukasikara mirja
死ねない、 というのだ、 わかしから、 見ると

karadaša minna rakujasine (S un) mukaqsja
体が、 みな、 らくだしね、 わかしは

minna hataraitaredo ima hontoni in rakuna
みな、 働いたが、 いま、 ほんとうに、 らくだ

konna z+secuni narimisitene (S un)
こんな、 時期に、 なりましてお、

(6) お寺の法事

I honnara ho:zini honnara ano monoo urini
それなら、 法事に、 それなら、 あの、 ものを、 売りに

kitanowa karakasatoka sonna donna jona mon
来たのは、 からかさとか、 そんな、 どんな、 ような、 もの(を)

urini kita mondesuka maquri ano sumo: no
売りに、 来た、 ものですか、 まつり、 あの、 角力の

tokimo.
とき(で)も。

D a: sumo: no toki cjoqto ande nandesuəaine
あ、 角力の、 とき、 ちよっと、 志れて、 何です、

jasimitai monmo kitarine he: kara ano cjava-
ヤシのような、 ものも、 来たりの、 それから、 あの、 茶椀

ndesjo omona monša cjava nto karakasa he: ka-
売りでしよう、 おもな、 ものが、 茶椀と、 からかさ、 それか

ra ano: konde minna hojane:
ら、 あの、 これで、 みな、 そうだね、

I karacumondesuka
からつものですか、

D karacumon karacumonno misega ande iciban
からつもの、 からつもの、 店が、 あれて、 いちばん

kurubadesu
来るのです。

S zju: mo nizju: mo kitoqtane hidoi toqkja
10も、 20も、 米でいたね、 ひどい、 ときは、

D an ho: siqcju: too n horemo, jasi icinenzjuno
あ、 そうするというと、 それもだし、 1年中の

karacu cju: wakede nakeredemo man ocjawan
からつ、 という、 わけで、 ないが、 まあ、 お茶碗

cju monna wareru monja sakai tete gohanzja-
という、 もの、 翻れる、 ものだ、 から、 といって、 ご飯茶

wankara nanmo kanmo minna ko: tewa (S UN)
 腕から なにも かも みな 買った、

hosite rainenno sumoni naqjuto mata kima-
 そうして 米俵の 角力に なるという、また 来ま

sjone: ho: siqto mata ko: wadesucja karaka-
 そうよね、 そうすると また 買うのですよ、 からか

samo sono torija (nanja ci: bai) konde ande
 さも その 通りだ、 (何だ というのだ) これで あれで

kudamonkara okwasi mitai monkara kodomono
 くだものから、 お菓子 のような ものから、 子供の ()

omocja mitai monkara zu: qto naranwadesu
 おもち のような ものから ずっと 並ぶのです。

S hanwirejamo kitoqta wade naiwakaine kawire
 畑切り屋も 来ていたので (は) ありませんか、 畑切り

mitai monmo ne
 のような ものも ね。

D un kitoqta nandemo konna iruijarone
 うん 来ていた、 何でも こんな 衣類だろうね。

S on on mukaqsja nanzja ano karakasaja kara-
 うん うん わかしは 何だ、 あの からかさ屋、 から

kasato karacumonna jaqpa o: kaqtane
 かさと からつものは やはり 多かったね。

D iciban o: kaqta
 いちばん 多かった。

S ima nanzjara ano: n anon ninujotoka omocja
 いま なにやら あの、 あの 人形とか おもち(が)

takusan aqkedo mukaqsja cjawanuri baqkarija-
 たくさん あるが、 わかしは 茶碗売り、 ばかりだ

qtane
 ったね。

D cjawanuri baqkari
 茶碗売り ばかり。

S horeo dokono hitojaqta baine
 それは どのの 人だったですか。

D ano hitora komacuno komacukai aqko dokojai
 あの、 人たち(は) 小松の、 小松かな、 あそこは どこだ、

ima cjawan uqtoqtoko
 いま 茶碗 売っているところ(は)。

S terai
 寺井。

D teraika ande teraino ho: kara siirete kuru-
 寺井か、 あれで 寺井の 方から 仕入れて 来る

wade naika siran
 ので ないか しら。

S hu: n areo omoqsjokaqtawane mitorudakade
 ふうん あれは おもしろかったです、 みているだけで。

D mitoruto omoqsjotene ikurani nite sutete
 見ていると、 おもしろくてね、 いくらに して 捨てて

makete jaru makete jaru tete j: i: tewa seru-
 買って やる、 買って やる、 と、 いったら 取る

gaba donna omosiro tewa kawantō tada sore
 がば、 どんな(に) おもしろくては、 買わないで、 ただ、 それ(を)

mitoqta wadesu baine hun
 見ていたのですよね、 ふん。

S imademo mukasi mukasino mamano hitoo kito-
 いまでも、 わかし、 わかしの、 ままの、 人が、 来て

qtejane oracino cinjai tokino hitodemo
 おられるね、 わたしらの、 小さい、 ときの、 人など。

D hoja hoja dandan toqsja iqtaredo (S ON)
 そうだ、 そうだ、 だんだん、 年は、 いったが、

mukasino hitojawane (S UN) na: n konna
 わかしの、 人だわね、 なに、 こんな

anta inakaded sakai: anna kore tete ju: te
 あなた、 いなかです、 から、 あんな、 これ、 と、 いった

toqte nan suruno kotohodono monno nasi
取って どうするの(という) ことほど の ものも なし。

S un oba: cjanraqca ano cincjai tokini jo:
うん、おばあち+んらは あの 小さい ときに よく

honna ho:zidemo macuridemo iqtoqtajarone
そんな 法事でも まつりでも 行っていただろうね。

(D hun) man mukaqsja minna kimono kite:
まあ わかしは みな きもの 着て。

D minna kimono kite sodeno kimono na:ai
みな きもの 着て、 そでの(ついた)きもの 長い

sodeno kimono kite soreba uresikaqta ja
袖の きもの 着て、 それが うれしかった の

desjo
でしょう。

S jaqpa ii kimon kita:ake icumojori
やはり いい きもの 着たのですか、 いつもより(も)。

D joi joi anta ima: gaqkoe iku kodomoa cjan-
いい いい あんた、 いま 学校へ 行く 子供は ちゃん

to nandemo hudanno mamamitai monjaro (S on)
と 何でも 平常の ままのような ものだらう。

mukaqsja anta nanja baine sjo:sjozijosikito-
わかしは あんた、 何だ よね 區曹役号式と

ka ten:jo:secutokani naqcu:to minna man
か 天長節とかに なるという、 みな まあ

konna mukasino moncuki hairoo moncuki moq-
こんな わかしの 紋付、 そうだらう、 紋付 持っ

toru hitowa moncuki kiru hucu: no kimonodemo
ている 人は 紋付 着る、 普通の 着物でも

tan suni simo:te arubao honna hudanno mamani
ダンスに しまって あるのを そんな みだんの ままに

ikucju: kotoo zjenzjen nakaqtasakai hosite
行くという ことは まったく なかったから、 そうして

hakama haitejazo
はかま はいてだぞ。

S horeo honna ho:zino tokidemone (D aan)
それは そんな 法事の ときでもね。

ho:zino tokja donna monjaine
法事の ときは どんな ものですか。

D ho:zino toqkja sodeno kimono kiru baine
法事の ときは 袖の 着物(を) 着る のです。

S aan sodeno kimono kiruga
ああ 袖の 着物(を) 着るの(ですか)。

D gaqkono toqkja minna cjan to honna nanjacja
学校の ときは みな ちゃんと そんな 何だよ、

sikenno toqkja tansukara daite kimono kite
試験の 時は ダンスから 出して 着物(を) 着て

ikusai (S hu:n) hono ho:zino toqkja kimo-
行くのだ、 その 法事の ときは きも

no kiru uba uresikaqta bajaranai ne:
の 着る のが うれしかった のだらうよ、 れ、

(S hu:n) macurito ho:zi
まつりと 法事。

S un bonodorja: donna monjaqtaine
うん 盆おどりは どんな ものだったですか。

D bonodorimo mukasikara ano to:ri sje:daina-
盆おどりも わかしから あの 通り 盛大なの

uba
だ。

S en ima nanka anmari sabirete mo:torujaro
え いま なにか あまり(に) さびれて しまっているだらう、

bonodori
盆おどり(は)。

D ima konde sabiretorujaro horeba jono nande-
いま これで さびれているだらう、 それが ほかの なんて

mo miru moŋkara aru monde boŋodorimo mini
も 見る ものが ある ものだから、 彼おどりも 現に

iku moŋna joke oranjaro (S un) sonde
行く ものは あまり いないだろう。 それで

sabireru bade naika sira
さびれる ばで ないか しら。

S areo nanja siono miqaodori kaine
あれは 何だ。 子猫の ミクサおどり ですか。

D mikusaodori tokatetene: jakamasi ju: taredo
ミクサおどり わたしら(の) とかといってね やかましく いったが。

S jaqpa undozjoni jaqtoqta bajaro
やはり 運動場に やっていた のだろう。

D siran mini ikan moŋno
知らない 現に 行かない もの(=から)。

S a: so:ka hu:n
あ そうか。 ふうん。

D hon-ton' oraqcja mitai nenpāino hitora odori
ほんとうに わたしら(の) ような 年輩の 人たちが、 おどり

sukina hitoba hon-toni minna mukaqsja odoq-
好きな 人が、 ほんとうに みな むかしは おどっ

ta moŋja (S hu:n) oraqcjano kota: hore
た ものだ。 (S hu:n) わたしらの ことは それ(を)

kiraija moŋno (S hu:n)
きらいだ もの(=から)。

(7) オラツチャ(わたしら)・ヤ-ヤ(母)など

S o:ja ojasanno ka:cjanna mada zuqto ueke
オーヤ、 オーヤさんの かあちゃん(年は)まだ ずっと 上ですか。

D o:jasanno ka:cjan hicizju:cija (S hu:n)
オーヤさんの かあちゃん 71だ。

oraqcja rokuzjuroku jaro hon-toni korecju:
わたしら 66 だろう。 ほんとうに これという

toritomeno nai koŋnane kokoran'o nanjasakai
とりとめの ない こんなね ところ(おだり)の なんだから、

kotobazukaija mukasikara mireo monosuboi
ことばづかいが むかしから 見ると ものすごく

kire:ni naqtasine' koko
きれいに なったしね、 ここ(は)。

S un anmari okāsii kotoba iwanne
うん あまり おかしい ことば いわないね

D iwan
いわない。

I honnara mukaqsja anmari mukasi ano katanai-
それなら むかしは、 あまり むかし、 あの きたない

jo:na cjuimasuka hazukasijjo:na kotobani
ような といえますか、 はずかしいような ことばに

donnajo:na kotoo aqta mondesuka
どんなような ことが あった ものですか。

D kotobadesuka (I een) hodesune cibocju
ことばですか (I een) そうですね 「迷う」という

kotoo mukaqsja no kotobade nanmoja tete
ことを むかしは、 (昔)の ことばで ナンモだ とい

beqcjawanō nanmoja ne: (S un) beqcja bai-
ベッチャです。 ナンモだ ね ベッチャ です

ne tete koiwai nanmojawane tete
と こういうのだ、 ナンモです と。

S wasirademo nanmoja cju:ne
ワシラでも ナンモだ というね

D jaqpa ju:ke
やはり いますか。

S oba:cjan iqqiki iqqiki cjuwanke
おばあちゃん イッピキ イッピキ といいませんか。

D iqpiki ju:aine
 イッピキ(と) いうのです。

S nandemo iqpikijaro
 なに(に)でも イッピキだらう。

D un:ho:suqju:to konoon jamasuro be:ne:iku
 うん そうするというと この 山代(温泉の) あたりへ 行く

cju:to warawareru bajacjanoo notono oba-
 というと 笑われる のだよ。 あの 能登の おば

cjan iqpiki iqpiki cju:tete nandemo iqpiki-
 あちゅん イッピキ イッピキ、 ということって 何でも イッピキ

ja cju:tete warawareru bja
 だ ということって 笑われる のだ。

S hu:n sakanadakenarane honde wakaru baikedo
 ようん 魚だけならばね、 それで 分る のだが、

ato kodomodemo to:qtari mono iqpiki cju:-
 はかの 子供でも 通ったり(すると) もの イッピキ とい

tarine:
 たりね。

D iqpiki iqpiki ju: tokodesita bai imanta
 イッピキ、 イッピキ、 ということ。 いま あんた

honna kotoba kawaqte monosusoi imano wakai
 そんな ことは、 変って ものすてい、 いまの 若い

hitora haikarana bade kotoba ju:toru baike-
 人(は)は) ハイカラな ので、 ことば(を) 知っている のだ

do (S hu:n) oraqcja oraqcja tete oraqcja
 が、 オラッチャ オラッチャ、 といって わたし(は)、

watasidomo gaqko:de tete watasi watakusi
 ワタシ(という)の)か(は) 学校へ 出て、 ワタシ(の) ワタクシ

tete ande honni narota bajarobane honzjaredo
 と おれで ほんとうに 習った のでしょう。 そうだが

mukasino kotobano mamani oraqcja tete wata-
 わかしの ことばの ままに オラッチャ と ワタクシ

si tete ju:te ande kaete ju:joni naqtaaa
 シ と いて、 あれで 変えて いうように なった(は)

a:akonde nanjaro waine oraqcjano hatacu
 あ これで なんとでしょう、 わたしらの 20才

zibunno toqkara watasini naqta bakane:
 ここの ときから ワタクシに なった のかね。

(S hu:n) joi uc+no hitoo watasidemo ju:to-
 よい 家の 人は ワタクシなど いて

qtazo (S on) kono hucu:ro iqaN kate: to
 いたぞ。 (S on) この 普通の 一般 家庭 と

sitewa oraqcja oraqcja cju:toqta hojaro
 しては オラッチャ オラッチャ、 といっている、 そうだろう。

S wasirademo ju:ne (D un) oraqcjate imademo
 ワシラでも いうね。 (D un) オラッチャと いまでも

ju:waine
 いいますよ。

D hun honzjaredo konna toqsjoqria ikura toq-
 ん、 そうだが こんな 年寄り(は) いくら 年

sjoridemo watasi watasi tete oraqcja hokae
 寄りでも ワタクシ ワタクシ と(いう)は)わたし(は) ほかへ

iku cju:to hazukasite honna koto juwarento
 行く というと 恥ずかしくて そんな こと(は) いまないと、

mukasino mama oraqcja: cju:te ora ruwaine
 わかしの まま(に) オラッチャ、 といって わたし(は) 居ります、

un imanara oto:cjantara papatara mamatarate
 うん、 いまなら オトちゃんとか パパとか ママとかと

ju:foredo hono zibunna i: bade ototo okaka-
 いているが、 その ころは 良いので オトト(=父) オカカ(=母)

jaro waine (S un) nen (S un) hono zibun
 でしょう、 ね、 そうだが、 その ころ。

S ototo okakajane
 オトト オカカだね。

D un ototo okaka
 うん オトト オカカ。

I sōree sukōsi waru naqto dōdo --- do: ju:ta-
 それが すこし わるく なる と どう どう いった
 desuka
 ですか

D mukasja
 わかしは、

S toto cjuwananda kaine
 トト といわなかった ですか。

D totojawaïne (S ne) tō:to ka:ka tō:to ka:-
 トトだがね。 トト カーカ トト カー
 ka cju:ta
 カ といった。

S ne hannda ja:ita
 ね そんなの(に) いったね。

D ima ob:cjanōka ne: N kotobaōa kawaqte
 いま オペレーションとか ね ことが 変って
 simōtee: N
 しまつて。

S hoja toto kaka nanka honnda kiitane
 そうだ トト カカ なにか そんなの(を) 聞いたね。

D ima pa:patara ma:matarate jaqtoreōōn
 いま パーパとか ママとかと ずっているが。

I ja:ja cju:ōa nakaqtake
 ヤーヤ といふの(が) なかなかですか。

D hazukasikeredo ju:tawaine anta minna hjaku-
 はずかしいが いました あんた みな 百
 sjono hitoraqja ja:ja toto:jawaine anta
 娘の 人は ヤーヤ トトですよ あんた
 mmai koto iwaqsjaruwa hōntoni ora hazukasi-
 うまい こと(を) いわれるわ、 ほんとうに わたし(は)はずかし

te iwarenānda ja:jamo oraqjano ucuno kotoō
 くて いわれなかった ヤーヤも、 わたしらの 家の ことは

sjō:baija jasakai ja:jamādeō iwanandaredo
 高亮照 だから ヤーヤまでは いわなかったが。

hjakusjode naimon minna ja:ja benzjodomo
 百姓(=農家)で ないもの(のち) みな ヤーヤ(だ)。側所なども

iwananda kōnsjo cju:ta monja (S un un)
 いわなかった、 カンジョ といった ものだ。

S ne:sano nja:nja cju:ne areō aqkōna ucidake-
 ネーサの ニャーニャ(嫁さん)というわ、 あれは あそこの 家だけで

de naidakaine ju:ōa wasira aqkōna ucino
 (は) ないのですか、 (あなたに)いつの(は)わたしは あそこの 家の

ne:sanni ne:sande nai ka:cjan jakedoo:
 ネーサ(=嫁さん)に、ネーサで なく(もう)カーチャン だが。

D oine minna ju:ta ōaja mukaqsja hōnōjaredo.
 そうです。 みな いった わかしは そうだが

ano hitōōa ano mamani nja:nja ja:njani
 あの 人が あの ままに ニャーニャ ニャーニャに

naqtoru ōai mukaqsja kono musumesan o nja:-
 なっている のだ。 わかしは この わすめさん を ニャ-

nja aqkōnā nja:nja kokono nja:nja:cju:ta
 ニャ(といった)、あそこの ニャーニャ このの ニャーニャ といった

ōai
 のだ。

S imademo ju:torune iqkendake
 いまでも いているね 一軒だけ(は)。

D ta:tatōka ne: oraqjano wakai tōqkja man
 タータ(=おじょうさん)とか ね、 わたしらの 若い ときは、 まあ

hono kodomono zibunna ta:ta cjoqko nensja
 その 子どものころは タータ(だった)、すこし 年が

taqtara nja:nja (S hu: N) aneōa ha:irone
 取ると ニャーニャ、 アネ(=嫁さん)、 そうだろうわ、

jomeiri jomeni iqtarii: naNdari sitara haja
嫁入り、 嫁に 行ったり など すると もう

anesanjacija imanara ne:santoka ju:toredo
アネサンだよ、 いまなら ネーサンとか 知っているが

anesanja
アネサンだ。

I honnara otokono koe do: ju:ta uadesuka
それなら 男の 子は どう いった のですか。

D ansama
アンサマ(昔年の長男などのこと)。

S tanci cjuwanandakaine e:sano
タンチ(幼童)といわなかったですか、 エーサの(タンチのように)。

D kodomo^o tanci
子供は タンチ(といいた)。

S aree kodomokaine e:sano tanci cju:tarane
あれは 子供ですか、 エーサの タンチ といいたらね。

D ancjan imani naqtara imademo ancjan ancjan
アンチャン(といひ)いまに なる。 いまでも アンチャン アンチャン

ju:totu
といっている。

S mukaqsja honnaba iwanandarone ancjandomo
わかしは そんなの(に) いわなかっただろうね、 アンチャンなど(と)。

D asukono ancjandomo iwanandarobai (S ne:)
あそこの アンチャンなど いわなかっただろうよ。

tanci ansama ne:
タンチ(で大きくなる) アンサマ わえ。

I tanci cju:nowa i: i:uadesjo
タンチ といひのは よい よいでしょう。

D i:baja i:baja anta
よいのだ よいのだ あんた。

S hojane anmari wasira wakai monde anmari
そらだね あまり わたしら 若い もので あまり(よく)

sirankedo e:sano tancidake siqtoruwa, darena
知らないが、 エーサの タンチだけ 知っているね、 だれの

koto ju:toru baka sirankedo
こと(を) 知っている のが 知らないね。

D e:sano tanci tanci cju:tane
エーサの タンチ、 タンチ といいたね。

S u:n hoqde jokaqta uairo
うん それで(呼び方は)良かった のだろう。

D jokaqta uajazo mukasi gohukuja siteen
良かった のだぞ、 わかし 呉服屋(を) して

(S hu:N) oqte honde jokaqta bai (S hu:N)
いた、 それで 良かった のだ。

(8) 通学の服装など

D horzjaredo ima kondene hontoni kawaqta-
そらだが いま これだね、 ほんとうに 変りました

wane huku^{soto} ieo joi kotobato iee:
ね、 服装と いえは よい(し)、 ことばと いえ

nanmokamo kawarimasita bai e: konna kodomo^o
何もかも 変りました よ、 ええ、 こんな、 子供

sja gaqkoidomo iku toqkja konna tezimano
しは、 学校へなど 行く、 ときは、 こんな、 手帳の

kimoⁿ simanone: (S UN) e: ucino kodomoo
きもの、 絹のね、 よい、 家の、 子供は、

kasurino kimoⁿ (S UN) hucu: no kodomoo
かすりの、 きもの、 普通の、 子供は

minna simano kimoⁿ kite ikimisitabe e:
みな、 絹の、 きもの、 着て、 行きましたね、 え。

(S hu:N) hujudemo nabaucuiqsoku nasi
冬でも、 長靴、 一足、 無し、

cubetai bani zo:ri haite (S hu:N) hujajazo
つめたい のに ゾロリ(を) はいて、 冬だ話

(S un) konna aka:i imademo omo:toruba aka:i
こんな 赤い、 いまでも、 思っているが 赤い

keqto mo:hujateo imanara aka:i keqtoya
ケット、 毛布だよ。 いまなら 赤い、 ケットが

hajaqteneN aka:i keqto kitari iroirona kon-
はやってね、 赤い、 ケット(を) 着たり、 いろいろな こん

na keqto kitari gozabos+ kabuqte iku kokara
な ケット 着たり、 ゴザボシ(を) かむって、 行く 子(供)から、

(S un) honna mantodomo mada oraqcjano
そんな マントなど、 までは) わたしらの

icinenja ninenni nakaqtato omowa
1年や 2年(の時)に なかったと 思うわ。

S hu:N nan haitoqtaine iku toki
ふうん、 なに(を)はいて行きましたか、 (学校へ)行く ときは、

D eqkja huqsu anta imajori madamada ora juq-
雪が 降るし、 あんた、 いまより、 まだまだ、 わたし(は)雪

kja aqtato omobane (S hu:N) huqtemo tai-
が (多く)あったと、 思うがね。(雪が)降っても、 大した

suta sukasananda badensike imanara a:sitewa
(努力もせず) 除雪しなかった、 ので不是吗。 いまなら、 赤(のように)しては

sukasuni kuredo (S hu:N) sukasi
すかしに、 来るわ。

S zo:rike
(はきものは)ゾロリですか。

D zo:ri haitoru bai
ゾロリ(を) はいている、 のだ。

S jukja huqtoru bani
雪が、 降っている、 のに。

D tabi haite zo:ri haiteqtawaine
足袋(を) はいて、 ゾロリ(を) はいて行きました。

S anoo jukino zibunni hakananda sa gomu warade
足の、 袋の、 ところに、 はきながったの(か)。 ゴム (を)わらで

cukuqta, jacu
作った、 やつ。

D anna mondomo nakanaka hakananda hakoi iku
あんな、 ものなど、 なかなか、 はきなかった、 羽巾(へ) 行く

komo oqtasi hjakusjono kodomoe anna mon
子も、 いたし、 百姓の、 子供は、 あんな、 (もの(を))

cukuqte moqte haite
作って、 買って、 はいて(いたが)……

S a: nanqjuvaine
おれは、 何というのだね。

D areo hukabucu
おれは、 フカグブ。

S hu:N ano warade cukuqta jacu
ふうん、 あの、 わらで、 作った、 やつ。

D hoja hoja hukabucu haite (S hu:N) oraqcja
そうだ、 そうだ、 フカグブ(を) はいて、 わたしら

taibai zo:ri haitewa nanka gaqkoe iqte
たいはい、 ゾロリ(を) はいては、 何か、 学校へ、 行って

gohansa cubetai tete atatameq cju: kotomo
ご飯が、 つめたい、 といっで、 あたためる、 という、 ことも

nasi honna bentono okazu site moqteku cju:
なく、 そんな、 べんとうの、 お飯(を) して(作る)持って行く、 という

kotomo nasi hontoni kondene: siqso cjueo
ことも、 なく、 ほんとうに、 これでね、 質素、 といえは

joika itarananda cjueo joika an minna honna
い(か)、 いたらなかった、 といえは、 よいい、 あ、 みな、 そんな

bajasakaien (S un) bentono okazuni honzja-
のだから、 べんとうの、 お飯(は)に、 そうだ

sakai mme:boqsjacja (S hu:N) mme:boqsja
から、 梅ぼしだよ。

kiraina koo cukemondemo moqteqta monka
懐いな 子は つけもの(渡物)でも 持って行った ものか

honna anta okazoireni okazo domo moqte kita
そんな あなた お数入れに お数 など 持って 来た

kodomo honna sjogaqkono zibunna minanda zone
子供(は) そんな 小学校の ころは 見なかったぞ

e:n nan moqteqta monzjara konde jonzju:nen
え なに(を)持って行った ものやら、 これで 40年

gozju:nenno hanasjsa sakaien honna bentono
50年の(前の) 話だ から そんな べんとうの

okazodomo wasurete simotokoto haja (S u:n)
お数など 忘れて しまふよ、 もう(すでに)。

e: honna monna mazuite omota kotomo nasi
え そんな ものは まずいと 思った ことも なく、

honde manzoku site gaqkoe iqtoqta hadesjo-
それで まんぞく して 学校へ 行っていた のでしょう

haine
よね

11

(9) むかしの進学

S hikawae iqtoqta hajaro
穂川(の)小学校へ 行っていたの(は)の(は)だろ。

D hikawaja
穂川だ。

S hikawano sjo:gaqkoe detoqta haine
穂川の 小学校へ 出たの(は)だね。

D un ano hikawano sjo:gaqkoBa taqta tokino
うん あの 穂川の 小学校が 建った ときの

uresikaqta koto kozinnō ueini oqta hadesucja
うれしかった こと。 個人の 家(に)までいた のですよ。

S saijsjo
はじめ。

D un oqinosimano simadani oqtasai (S hu:n)
うん 萩の島の 島田に いたの(は)だ。

hosite simadani ninemo oqta dakane hosita-
そして 島田に 2年も いた の(は)かね、 そうした

raano imano ano gaqkoBa dekitara imano
ら(は)あの(は)いまの(は)あの(は) 学校が できたら、 いまの

kota: boroborojaredo uresitene: haiqta
ことは ぼろぼろだが、 うれしくてね (校内へ)はいたら

deq tokoe wakaran tete sawaide aruite o:kii
出る ところが わからない(は)と(は)きわいでの(は)あるいて、(学校が)大きい

monjasakai hontōsi: ano gaqkō ande mezi
ものだから、 ほんとうに (は)いい、 あの(は) 学校は (は) あれて 明治

jonzjd:jonnenkato omotoru hajara (S hu:n)
44年(は)と(は)、 思っている (は)の(は)だが、

taqta hajanen (S hu:n) hontō mukasino
建った (は)の(は)だね、 (は)ほんとうに (は)むかしの

kotoo kangae te mēru:cju:to:ima man sanna
ことを 考えて 見る (は)という(は)、 (は)まあ (は)あんな

nanjara kanjara wakaran desuwsine (S u:n)
何(は)だか (は) かん(は)だか (は) わ(は)からない (は)です。

zinzjoione nni jameteku hitojara honde hokae
尋常(は)年に (は)止めて行く (は)多く (は)人(は)や(は)、 (は)忘れて (は)ほ(は)か(は)の(は)家(は)へ

komorini iqtawadeqso hatabae iku hitojara
子守に (は)行った(は)のですよ、 (は)幼(は)園(は)の(は)へ (は)行く (は)人(は)や(は)

man zinzjo rokune de o:kata haja minna ja-
尋常(は)尋常(は) 6年(は)で (は)多く (は)もう (は)あんな (は)止

mete gimukjo:iku:cju: kotomo nakaqtaredo
止めて、 (は)義務(は)教育 (は)という (は)こと(は)も (は)な(は)かった(は)が、

andene: hosite onnano hitora taijāi nanzja-
あれで (は)お、 そうして (は)女の (は)人(は)だ(は) (は)たい(は)いて(は)い、 (は)何(は)だ(は)った(は)が

qtaredo oraqcjaba: koqde joi ucino hitoba
(進学しなかったが)。わたしが これで、よい 家の 人が

kono obici cju tokoni oqtaqta dai jonin
この 戦市 というところに おられた のだ、4人。

orato joninka hositara atono hitoraba gaq-
わたしと 4人か、 そしたら、 残りの 人たちが 学

kono sjensjono ucino hitojano kannuqsanno
校の 先生の 家の 人だの、 神主さんの

ucino hitojano minna ko:toe deq cju:taqta
家の 人だの、 みな 高等(小学)へ 出る といわれた

dai hositara ora omote en hositara oramo
のだ。 そしたら わたし(は)思って ね、 そしたら わたしも

detaisakai daite kure tete ucino hitoni
(高等へ)出たいから 出して くれ と、 家の 人に

ju:taraa honnaraan hondake detakere^o daite
いったら、 それなら それだけ 出たいならば 出して

jaq tete daite morotaba jokaqtaredoon aru
やる といって 出して 買った(の)が よかったけれど、 ある

hitoba ju:taqta horewa wasurenzone a:q
人が いわれた。 それは 忘れません。 ああ

aqkorano kodomobaan ko:toe deta tete juita
あそこなんかの 子供が 高等(科)へ 出た と いった

hairone anta imano daigaqjori hodoni iwa-
そうだろうね、 あんな いまの 大学より (大学)ほどに いわ

reta monka ora mada jakamasijani juita
れた ものか、 わたし(の)まで やかましい(うるさい)のに いった

gade naikato omogaja (S hu:N) ano aqkoran-
ので ないかと 思うのだ。 あの あそこら

no kodomoba ko:toe joi ucuno kodomoo mina-
の子供が 高等へ(行く)。良い 家の 子供を 見習

ro:tee: aqkona kodomoba ko:toe deqtoine
って、 あそこの 子供が 高等へ 出るそうだね

cju:taqta honzjaredo jaqpariin detari dai-
といわれた。 そうだが やはり (自分も)出たり(親から)出し

te moqta okauenii: jaqpari hore^o iqsju
て、 買った おが子に(よって)、 やはり、 それは 一生

komde anta minnato tonarino obaharaqcja
これで、 あんた 世と(肩が並べられる)、となりの おばあさんなどが

kitewaa:N ba:cjan sinbanna jonde doja hesu-
(家へ)来ては、 おばあちゃん、 新聞は 読んで どうだ、 ヘソナイ

na nakarobane tete ora asademo sinbann cira-
ことが ないだろうがね と、 わたし(が) 朝など 新聞(を) テラ

qto midasidake mite ho:siq cju:to tonarino
と 見出しだけ 見て(いる)の、 そうする という、 とりの

obaba hoja wajnete oraqcja nan kait^o groba
おばあさん(は)そり ですよと、 わたし(は) なに 書いて ありうが

ikurademo hima aredo bakaraide jomare-
(分らない) いくらでも(読む)。ひまは あるが、 わからなくて 読めない

Nna tete ju:teni cuite a:amono cju:monna
いな と、 いわれる(の)に ついて、 ああ、もの、 という ものは

naro: toki jaqpari narotokan Kotonjaisjo
習う(べき)とき(に)やはり 習っておかぬ ことには 一生

torikaesino cukan monzjato ora omote cuku-
取りかえしの つかない ものだと、 わたし(は)思って、 つく

zuku man kansin sitewa orimisuwaine^o
づく まあ 感心 しては おりますで。 ええ

jaqpari anta hitoo konnabe^o tebaqmja kitemo
やはり あんた 人が こんなだ(と) 手紙が 来て、

kore^o donna baine tete icudai to:lewa to:-
これは、 どんな のですか と 一代(=一生)(人)にたずね たずね

tewa oru mani anta kakarenedomo jomudake^o
ては、 いる 間に あんた、(字は)書けないが 読むだけは

rikucuna jomu mondeqsone hondeen araa:
ラクダ(こと)で 読む ものですよ。 それで ああ

hōntone o jano okaŋene j'okaqt'ananto 'omote
ほんとうに 顔の おかけで 上がったなど 思つて、

ima toqsja eqtaraan kansja site orimasučja
いま 年が 行つたら 感謝 して おりますよ。

un hōntoninen hōndake jakamasi iwgrete
うん ほんとうにね それだけ さまざま いわれて

binbonakaqta monde gakoe deta saizone
貧しかった もので、 学校へ 出た のです。

(S hu:N) un

(10) あいさつ

S 《aisacu ikimasuka》 hōnnaraan obaba anoon
(49b)
《あいさつ(へ) 移りますか》 それなら オババ、 あの

asaa: hitonidemo oita tokini aisacu suru-
朝 (ほかの)人などに 会った ときに あいさつ する

jaro (D un) are donna bañi ju:toqta ōai-
だろう。 あれ(は)どんな のに いていた です

ne mukasidemo man hucu: no kōtobāni ju:te
か、 わかしても まあ 普通の ことばで いて

mireba
見れば。

D mukasika
むかしか。

S un imasara ohajo: gozaimasu cjujaro (D un)
うん、 いまなら お早う ございます というだろう。

mukasija hōnna iwannadajaro ōaine donna
むかしは そんな(に) いわなかっただろう がね、 どんな

koto ju:toqtaine asa
こと いていました、 帆

D ohajo: gozansane cju: bairohane (S hu:N)
お早う ゴザンサネ(ございます)という のだろうがね。

hojaro
そうだろう。

S ohajo: gozansane tee:
お早う ゴザンサネ と(いうのか)。

D un ohajo: gozansanete
うん、 お早う ございます(いう)。

S hu:N hōnnara niqju do: jutogtaine niqju.
ふうん、 それなら 日中(は) どう いていましたか、 日中(は)。

D niqjuka (S un) i: tenkijane tete ima
日中か、 いい 天気だね と、 いま

tenkja jokere joitoka joi anoon ifana
天気が よければ よいとか、 いい、 あの 緑な

amejane tete konna jo: na mon ja
雨だね と、 こんな ような ものだ。

S hu:N nen cukerune
ふうん、 ネン(全) (あとに)つけられ。

D un ja: na amejane (S un) joi tenkijane
うん、 緑な 雨だね、 いい 天気だね

tete konna jona hojaro (S un)
と、 こんな ような、 そうだろう。

S jorue donna ōaine ju: batademo
夜は どんな ですか、 夕方(のこと)でも(いい)が。

D hojane: ogi imawa konbanwa osimaisan jaro-
そうだね、 オン(マイサン)、 いまは こんばんは オンマイサンだろ

ōai
うよ。

S un hore ju: batajaro ōaine
うん、 それは 夕方だろう がね。

D un ju: batademo ju: han tabetekarademo osima-
うん、 夕方でも 夕飯 たべてからでも、 オンマ

isaN tete ju:teja minnaBara osimaisaN cju:
イサン と (みなさんが) いわれる。(どなたも) るな オシマイサン という。

hoNna haikarana kotoba iwanaNda Bade naika-
そんな ハイカラな ことば(を) いわなかった ので ないか。

na: honzjaredo osimaisaN Bura i ju:toruwai
そうだが オシマイサンくらい(は) 知っているよ。

(S ne:) UN
うん。

S imademo ju: Bade naikaine osimaisaN ---
いまでも いう ので ありませんか、 オシマイサン(は)。

D imademo osimaisaN ju:toru (S ne: hu:N)
いまでも オシマイサン(は) 知っている。 お、 うん。

konbanwadomo nakanaka saikiN hajaqte kita
コンバンワなど どうして 最近 はやめて 来た

kotobade (S UN) eN osimaisaN jarobaine
ことばで、 え、 オシマイサン でしょう。

(S neN) UN
お うん。

S jomedorini iqte nanka iwanke jomedorino
よめ取りに 行って なにか いいますか、 よめ取りの

ko:zjoka nanka donna Ba ju: Baine jomedori-
口上か なにか(は) どんな の(に) いい ますか、 よめ取り

ni iqtara
に 行ったら。

I ano:N josono ucino: ojomedorino: ano: oiwa-
あの、 ほかの 家の およめ取りの、 あの お祝

io ju:jo:na nanka sono katamitaina monna
いを いうような なにか その 至りたい ものは

nauka kono heNni nai mondesuka donna jona
なにか この あたりに ない ものですか、 どんな ような

koto ju:ta mondesuka
こと(を) いった、 ものですか。

D ho:jane: oraqcja anta honna toqkja wakaisi-
そうだね、 わたし(は) あんた、 そんな ときは 若いし。

(jaro)

S nanka jokobawano ucie nanka mono moqteqta
なにか 横川の 家へ なにか もの(を) 持って行った

Bade nai Bake nanka jomedorini arujaro
ので ない のですか、 なにか よめ取りに (話すことが) あるだろう

Baine jomedorija arujaro doqkani hon toki
がね、 よめ取りが あるだろう どこかに、 その とき

sinamondemo moqte ikujaro Baine oiwaino.
(祝の)品物など 持って 行くだろう がね、 お祝いの。

hon toki nanka ju:jaro Baine kotobao
その とき なにか いうだろう がね、 ことばを。

D honna koto mmaikoto ju: hito aredo oraqcja
そんな こと(を) 上手に いう、 人(は) あるが、 わたしらは

anta honna tokoe iqta kotoo naimonno
あんた そんな ところへ、 いった、 ことが ないもの(=ないから)。

S honzjakedo nanka ju:jaro Baine kantanna.
そうだが なにか いうだろう がね、 簡単な

kotobade
ことばで。

D kantanna kotobadeka (S UN) hoja honna
簡単な ことばで、 そうだ、 そんな

kantanna re:ka na:N kokora konde kan-
簡単な 例か、 いや、 こころ(は)、 これで、 簡(単なととで)。

nenboroja cju:temo kantanna kjoa antaan
ていねいだ、 といっても、 簡単な、 今日(は)、 あんた

omedeto gozaimasu cjute man konna jona mon-
お目出とう、 ございます、 といって、 まあ、 こんな ような、 もの

zja hontono mukasikara kantanna Baja
だ、 ほんとの、 わかしから、 簡単な、 のだ。

S hu:N tada omedeto gozaimasu
 ふうん ただ おめでとう ございます(か)。

D un kono tabi omedeto gozaimasu tete konna
 うん この たび(は) おめでとう ございます と こんな

jona monzjajaine hono maeno kotobaba oraq-
 ような ものだが、 その 前の ことが、 わたし

cja obababa oqtaqta monde orano ojava oqta
 らは オババ(ここでは母)が おられた ものも、 わたしの 親が いた

monde oraqcja zjenzjen sonna tokoe taqci
 から、 わたしら 全然 そんな ところへ タッチ

sjenanda monzja
 しなかった ものだ。

S a:N obababa baqkai jaqtaqta monde
 ああ、 オババ(ここでは母)が 世話(を) やられた もので(たぬに)。

D on orababa ucini umareta monnaba desucja
 うん、 わたしが 家に 生まれた ものなの です、

honto ju:tara hositara hono obaba cju:
 ほんとう いったら、 そうしたら、 その、 オババ、 という

sita: keNsikio aqte orano oja Jaredo sinda
 人は 見舞が あって、 わたしの 親 だが、 死ぬが

sinmade zenbu kamotogtaqta sai (S hu:N)
 死ぬまで 全部 (家の事)を)かまっておられた のだ。

ucino kotowa greta kodomoni geta iqsoku
 家の ことは 下駄(を) 子供に、 下駄 一足

ko: Namade obabano
 買う のまで オババの

S jurusi nake
 許し(が) なけ(れば?).....

D jurusida nakeneo kowan bai (S hu:N) kowan
 許しが なければ 買わない のよ、 買わない

tete horeo nande ko:ta cjuwa iwanedomo
 といつて(も)、それは なぜ 買った とは いわないが

ojano ju:tori sitoroo macibai naito mote
 親の 云う通り(に) しておれば、 間違(い)が) ないと 思つて、

(S un) hojaroneN (S un) honde sonna
 そうだろうね、 それで そんな(ことは)

obabano honna nande korekosa siranzja dare-
 そんな(ことは)オババの)に(旦那)も、これこそは 知らないよ、 だれ

kani hore cjoqto hitokoto anta kiite hanasi
 かに、 それ(を) ちょっと、 一言、 あなた(が)聞いて、 はなし(を)

suru koqcja
 する ことだ。

S un hositaraan (D un), akacjan umareqjaro
 うん、 そうしたら(つぎに)、 あかちゃん(が) 生まれるだろう、

do:sje aka nanka akacjan umare tara nanka
 いずれ、 あか(ちゃん)も、 なにか、 あかちゃん(が) 生まれたら、 なにか

mata moqteqtaro (D un) areo nanka ju:te
 また、 持って行ったろう、 あれば、 なにか、 いて、

moqteqtaro baine
 持って行ったでしょう。

D areo hore horemoja baine antatokoniin aka-
 あれば、 それ、 それもだ、 がね、 あなたとこに、 あか

cjan umareta teteo omedeto gozaimasu
 ちゃん(が)生まれた、 っけ、 おめでとう、 ございます、

(S un) horeo ima anta saikinno kotobaja
 それは、 いま、 あなた、 最近の、 ことばです、

zone (S un) mukasino honna koto ju:itaka-
 よ、 何かの(必要)も、 そんな、 こと、 いったか、

ne:N
 ね、

S donna koto ju:toqta monkape tada boqa:qto
 どんな、 こと、 いった、 ものかね、 ただ、 ボザッ(と)行きますか、

D ikaN jaqpari honde medetakeree medetai ju:-
 (だ)行かない、 やはり、 それで、 めでたければ、 めでた(い)と、 いて、

tee: konnaan nan sita monjaredomoon tete
て、 こんな つまらない ものだが と

ju:ite moqteku bairubaine (S UN) hairoo
いて、 持って行く のでしょう。 そうだろう、

(S UN u:N) keqkjoku
つまり(は)。

S so:sikino tokiwa so:sikite hito sindaqa
葬式の ときは、 葬式というのは 人の 死なれた

tokijazo
ときだぞ。

D sindaqa toqkja nihon zjenboku iqsjojaro
死なれた ときは 日本 全国 いっしょ(=同じ)

baine
でしょう。

S donnaba sitoqtaine
どんなの(に) していましたか。

D hairo kono tabiwaan (S UN) nani tete man
そうだろう。 この たびは 何 と(いて)まあ、

dare hajaronen otoqcantoka ozi:cjantokaan
だれ、 そうだろうね、 お父さんとか おじいちゃんとか

(S UN) no:naru masite haja (S UN) ikura-
亡くなるまで(=亡くなられてはや(どうも)) どれだ

kosa anoon osabisii kotode (S UN) gozai-
け、 あの、 おかしい ことで

masjote man konna jona morzja oraqcjano
まじょうと、 まあ、 こんな ような ものだ わたしらの

kota:
ことは。

S kimaqte mo:toru monno ne:
きまって、 しまっている、 もの、 ね。

D kimaqte mo:toru UN (S hu:N) iroiro osjewa
きまって、 しまっている、 うん、 いろいろ お世話

simasitaredo nanaju nasakenai tete konna
しなされたが、 行という なさけない と。 こんな

jona mondesicja dokomo iqsjo desicja konna
ような ものですよ。 どころ、 おなじ ですよ、 こんな

monna UN
ものは、 うん。

S kazini naqtara do:sita bai kazini naqtara
火事に なったら どうした のだ、 火事に なったら。

I kazimimai desucja
火事見舞い ですよ。

D an kazimimaike
あ、 火事見舞いですか。

S a: anmari nai mondene: anna monna
あ、 あまり ない ものだね、 あんな ものは。

D nai monde oraqcja anta kazimimainidomo
ない もので、 わたしら、 あんな、 火事見舞いなど、

otokodaqcja baqka iku monde ucira (I hu:N)
男たち、 ばかり、 行く、 から (この)窓など(では)。

haironen (S UN) ora kono tosini naqtoredo
そうだろうね、 わたし(は) この、 年に、 なっているが、

kazimimainidomo iqta kota: naiwaine (S hun)
火事見舞いなど、 行った、 ことが、 ありません、

un
うん。

S omojaniin aqtaro baine kazi (D UN UN)
本家に、 あったでしょう、 火事(が)。

antoki ne:sanni o:ta toki owanandakaine
あのとき(本家の)よめさんに、 会った、 とき(どうした)、 会わなかったですか、

ucino hitoni
家の、 人に、

D owananda
会わなかった。

S hu:N soja anmari nai monne:
 ようん、 そうだ、(火傷は)あまり ない からね。

I nai kogcja sakaine:
 ない ことだ かね。

S otokono hito me:si moqteka nanka sitee:
 男の 人は 名刺 持つか 何か して、

honde owarija mon ne:
 それで 終りだ もの ね。

D hoja (S hu:N) konde terebidemo mitoq
 そうだ、 (S hu:N) これで テレビでも 見ている 1

cju:to sono tokorono nantete kondene: nan-
 という、 その ところの なに(=習慣など)といってこれだね なにし

sitapa aru mondesuredo kokora nanzjara
 た(=買った)の(が)ある ものですが、 このあたり(は) 何だか

saqpukena (S huhun) man kantanna Dadesjo:
 森風景な まお 簡単な のでしょう

Jaine (S un) kanta:nna konna rakuna
 ね。 簡単な こんな 楽な

tokonauadesite
 ところののでして。

I ano honnara ano: jesonno miseene (D e:)
 あの それなら、 あの ほかの 席へお、 はい

ano monoo kaini iku toki kodomono toki do:
 あの ものを 買いに 行く とき、 子供の とき どう

ju:te haiqtakareta desuka
 行って、 はいって行かれた ですか。

D a kodomono tokinene
 あ 子供の ときにね。

I tatoeba okasidemo ano okasidemo kaini iku
 たとえば お薬子など、 あの お薬子など 買いに 行く

toki
 とき。

D kore kenke are kenke cju:ta monzja hazuka-
 これ ください、 あれ ください いった ものだ。 はずか

sii hanaqs Jaredo un oraqcjano kodomono
 しい。 はなしだが うん わたしらの 子供の

zibun
 ころ(は)。

S maidosante haiqtakanandake
 マイドサンといって、 はいって行かなかったですか。

D maidosandomo ju:taga anta oraqcjano kodomo-
 マイドサンなんか いったの(は)、 あんた わたしらの 子供

no:zabunni maidosandomo juwananda kore
 の ころに マイドサン など いわなかった。 これ

kenke are kore hojaroo (S un) manzju
 ケンケ、 あれ(ケンケ)これ(ケンケ)、 そうだろう。 まんじゅう

kenketoka are kenke dandahii naqta heiro
 ケンケとか、 あれ ケンケ(とか)、 次第に(変るよう)になった。 そうだろう

ano nan sitara maidosan kore krdai cju:ani
 あの ひょと すると マイドサン(=今日は)、 これ クマイ(=下さい)というのに

naqtabai mukaqsja kenkej
 なったのだ。(しかし)むかしは ケンケだ。

S kenkedakeke
 ケンケだけです。

D obecuno kenke sju:no kenke cju:ta monzja
 叔母の ケンケ、 子供の ケンケ いった ものだ。

(S hu:N) un are kenke ano hojaro kwasi
 うん、 あれ ケンケ、 あの そうだろう、 妻子(を)

kenketoka kore kenketoka site ju:ta
 ケンケ(=ください)とか、 これ ケンケとか、 いった

morja
 ものだ。

S maidosandomo juwanandake
 マイドサンなど いわなかったですか。

D juwan juwan
いわない、いわない。

S wasirakane ju:ta:da
わたしらがね、いったが。

D maidosan ju:toru
マイドサン(は) いらっている。

S anzjusaedemo haiqteku toki maidosante hai-
アンジムサ(=服号)でも はいって行く と、き、マイドサンと はい

qteqtee:
って行って。

D ju:ta ima anta maidosan jori konniciwaja
いった。いま あんた、マイドサン より、コンニチワだ

baine hondake kawaqta bai (S un) maidosa-
がね、それだけ 買った のだ。マイドサ

nmo nanmo nakaqtawaine kore kenke are kenke
ンも なんも なかったです。これ クンク、あれ クンク(と)

ju:ta bai (S hu:N) un
いった のだ。

I sono kenke cjunowa te:nena i:kata desjoo
その クンク というのは ていがない いいかた でしょう。

D sju:no kenke ogicuno kenkete man sju:to
子猫の クンク、 数市の クンクとって、まあ 子猫と

obicida sonna monna hajaqta gadenaike ano
获市が そんな ものが はやった のでないですか、あの

jono hore janazeno hoe iku cju:to kusancje-
ような それ(が)。朝顔の 方へ 行く というど クサンチ。(=

tara cju:taqtawa
下さいませ)とかとっていった。

S nanka honna ju:ne kusancje
なにか そんな(に) いうね。クサンチ。(と)。

D un are kusancje kore kusancje cju:taqta
うん、あれ クサンチ。(と)、これ クサンチ。(と)といわれた。

ho:suq cju:to kenke cju:ba cjoqto zjohinrasii
そりする というど、クンク というの(は)すこし 上品らしい

baine (S hu:N) hojaroneN
がね、そうだろうね。

I kiqto zjohinna kotoba desjo
きっと 上品な ことば でしょう。

D zjohinnaba desjobaine (S hu:N) are kenke
上品なの でしょうね。あれ クンク

kore kenke ogicuno kenke sju:no kenkete
これ クンク、 数市の クンク 子猫の クンクと

minna ju:ta tokoja (S hu:N) hjakusjono
みんな いった ところ(=地獄)だ。百鬼の

ho:wa ikeo kusancje jannzjeja sonna jacjao
方は、いけば クサンチ。(だ)。朝顔や そんな(百姓の)や(=谷

kusancje cju:ta
内)は クサンチ。(と)いった。

S hu:N kenke cju baine
ふうん、クンク、というの だね。

D un kenke (S hu:N) dandan ni naqte anta
うん クンク。だんだん(赤と)なって あんた

maidosante iqte ima konniciwajaro
マイドサンと いて、いま コンニチワだろう。

S un wasira maidosan jaqtawa
うん わたしら マイドサン 買ったよ。

D anta maidosanka (S un) imano anta konna
あんた マイドサンか、 いまの、あんた、こんな(小さい)

kodomo konniciwa te iku baine ne: ne:wa
子供が 今日(は) / と (は)いて行く がね。ね、もともと

anta ora karusa:nna konna keno monde hon-
あんた、わたし(は)はさきりしない、こんな 気の もので、ほん

totiin unjazone mukasino nenporona kotoo
とうに、何です、むかしの ていがない ことば

siran Badesucja zaqkubarande oru taqcjasa-
知らない のですよ、 ズックバランで いる 性質だ

kai
から。

I e e honde joi Badesu e:
え え それで よい のです。 ええ。

D konde kicinTo sita ucunin nansuq cjuTo
これで きちんと した 家に 何する(生れた)する)というど
nanjaredu ucja nanzjara
何だが (私の)家は 何だが。

S kicinTo sita ucini ho:gen te: monna naiwai-
きちんと した 家に 方角 という ものは ないです。
ne

D ho:kane
そうかね。

S honna kitanai kotobacja cuko:toranjaro
そんな きたない ことばという(物)は 使っていないだろう
gaine
がね。

D hojamo si:renne:
そうかも 知れないね。

S un ano nakahaqsan tokaa:
うん あの 中橋さん(の) ところは。

D so:de gozansutea ju:te oraqcja tomodacudo:-
そうで ゴザンスと いて、 わたしら(は) 友だちどうし
qsjazo nakahaqsanno okusanTo oraqcjano
だぞ、 中橋さんの おくさんと。 わたしらの
konna zaqkubaranna kotoba iwanzja
こんな ズックバランな ことば(は) いわない(=使われない)。
S nanja(nandeja?)
何だ (なぜか?)。

D ho: suq cju:to sitasimiBa nai jo:na monjane
そう する というど、 親しみが ない ような ものだね。
(S un) tomodacido:si do:kjusjedo:si o:te-
友だちどうし 同級生 どうし 会って
moon cjoqto aratamaqtoqteja cju:to nanjara
も すこし あらたまっておられる というど、 何だが
okasii monja (S un) un
変な ものだ、 うん。

S cusi nanka sicumonna nanka naidesuka
つぎ(に) 何か 質問は、 何か ないですか。
I e e mo daitai
え え もう だいたい(すみません)。
D ara: totonowan kotobaqkari antaan ju:teen
あら ととのわぬ ことばかり あんた いて。
I ija ija ano sore nan nao kikitakaqta gade-
いや いや あの それ(が) なに なお 聞きたかった ので
suwa e:
す、 ええ。
D nanmo anta cumamu tokomo nai hanasibaqkari
なんも あんた 捕える ところも ない はなしばかり
desugaine
ですがね。
(II) ^レ之 ^オ乎 ^シ路 (館の名)

S dojaine amee: mukasikara cukuqtoru bake
どうですか。 船は わかしから 作っている のですか。
D a mukasikara
あ わかしから、
S oba:cjanu oba:cjanu maeno maeno oba:cjan-
おばあちゃん、 おばあちゃん、 前の 前の おばあちゃん

madee oba:cjan kara hazimeta ba ke
 まで、(いや)おばあちゃんから はじめた のですか。

D nanmo maeno maeno hitokara (S hu:N) konda
 いや 前の 前の、人から、 これで

orade jondaimeja cigai (S hu:N) a sandai-
 わたしで 4代目だ、 というのだ、 あ 3代

mede oqja to:cjande jondaimeja cigairedo
 目で、 わたしの(家の若い)トーション(=息子)で 4代目だ というのだが、

(S hu:N) horeba hairoo hani hiroku ima
 それか、 そうだろう、 節間(を) 広く 現在

sezu mukasino mamani man onnana naisjokuja
 しないで、 わかしの ままに、 まあ、 女の、 内職だ、 これだ

tete ima sitoru monjasakai na:N nobin
 といって、 いま している ものだから、 きっぱり 延びない

S areo nancju amejaine
 あれは、 何という 船ですか。

D ucinoda siozi
 家のの(は) シオジ。

S hu:N mmai amejane:
 ようん、 おいしい 船だね。

D ame toqte kite awereo jokaqta, uqkari omota
 船(を) 取って、 来て、 あげれば、 よかった、 うっかり、 思った。

mizuame ima siroi(a) kiretoru sai (S hu:N)
 水船(は) いま 白いの(が) きれいでいる のだ、 (S hu:N)

daigaqkono sjensje desuka ho:on jacino
 大学の 先生、 ですか、 ほう、 谷内の

okabesanne dokono daiwakuc aubete dairā
 岡部さんに、 この 大学へ、 あげて(女) のやら、

konna ameo cukaimonni sitaqta kotoo aru
 こんな 船を、 つかいもの(=器物)に、 なさった、 ことが、 ある。

S mezurasiiwaine kono ame
 恐ろしいです、 この 治(は)。

D okabesan tete gozonzide naidesuka
 岡部さん、 といって、 ご存じで、 ないですか。

S nanka kono konohennoine ano kita: arujarone
 なにか、 この、 このあたりのね、 あの、 喜多(というの)があるでしょう。

(I en) kawasirino (I en) ano kitato nan-
 川尻の、 あの、 喜多と、 なに

ka narande, tomuraka nanka iwaretoqteja
 か、 並んで、 十村か、 なにか(と) 云われておられる。

D iwaretoru uci jo:ne dono ho:nokara oideru
 いわれている、 家(だ)、 よくね、 どの、 ほうから(内) おいでる

ba ka daiwakuno daiwakuno nanno daiwakuno
 のか、 大学の、 大学の、 何の、 大学の

sjensjebatajara jaqpari cjoqto mukasino
 先生がたやら、 やはり、 ちよっと、 わかしの

kotoo sirabeni oiderurasiwa nanka sjomocu-
 ことを、 調べに、 おいでるらしいわ、 何か、 荷物

ba takusan aru
 が、 たくさん、 ある。

I an:so:desuka
 あ、 そうですか。

D mukasino sjurukentokane anna monna katanaja
 わかしの、 手裏剣とかね、 あんな、 ものは、 刀や、

anna monna takusan aru uci deqsaine
 あんな、 ものは、 たくさん、 ある、 家、 ですよ。

I ano oba:cjan me:zi nannen umare desuka
 あの、 おばあちゃん、 明治、 何年、 生まれ、 ですか。

D ora me:zi sanzjugonen desu
 わたし(は)、 明治、 35年、 です。

I sanzjugonen desuka (D e:) hojakedo ano
 35年、 ですか、 (それは) そうだが、 あの

se:wa nan ano amejasande naidesjo
 姉は、 なに、 あの、 高屋さんで、 ないのでしょうか。

S doici nandesu nen
 ドイチ なのです ねん

I doi doisanke
 ドイ ドイさんですか。

D doici
 ドイチ

S do cucito pa icinandesu
 ド 土と パ 一なのです。

D konna cucutoen konna kantanna na:ja ahodemo
 こんな 土と こんな 簡単な 名だ。 ほかでも
 kakareru
 書かれる。

S ame ame cukuqtoqteja monzjasakai hucu:
 俺 (を)につくっておられる ものだから、 普通
 ameja ameja cju:ne
 船屋 俺屋 じというね。

I ha ha han doici nani nanisan cju:ake
 は は は 土一 なに、 なにさん というのですか。

D orauo nake (S u UN) doici tomi cju:adesu
 わたしの 名ですか。 土一 登美 というのです。
 (I a:n)

S ucino ojazirato iqsjono baine raqkomo
 家の オヤジ(=父)らと いっしょの のだね。 学校も。

D iqsjoja honde jaqpariin mukasi hurikaqteen
 いっしょだ。 それで やはり むかし(を) 振りかえて、
 dandanto toqsja ikuni cureteen a:q siawasje
 だんだんと 年が 行くに つれて、 ああ しあわせ
 jauan to omotewaan jamodo kodomoba qoqteen
 だ々と 思っては(ね)。 たくさん 子供が いて
 taihen na bajaranomoon jamodo oreskoso kon
 たいへんな のだが、 たくさん おればこそ、 これ

dakene minnasite daizini site kureruwato
 だけに みんなして 大切に して くれるわと

omoteen ora jarokonde oru badesucia un
 思っで わたし(は)よろこんで いる のですよ、 うん。(しめし)

mada aqkato omote oraren baicja mada aqkato
 まだ 安心に 思っで 居られない のだよ。 まだ あんた

jomesan moro kodomomo oqsi
 よめさん(を) 買っで 子供も いるし。

S obaba mo cjoko suree magoo jomesan morozone
 オババ もう すこし すれば 孫が よめさん(を) 買っでね

D jama magoo jomesan morojori magoo ko:ko:
 (云いあまり)孫が よめさん 買っでより、 孫が 買っで高枝
 socuho: sitorusi isobasii anta aqkato
 卒業 しているし いそがしい。 あんた、 安心に
 omote jasundemo oraren doqka kanazaono
 思っで 休んでも いられない。(あなた) どこか 金沢の
 ositode gozansuke aan
 お人で ございますか、 ああん。

S sensee cubatakaine
 先生は 神様ですか。

D o:oon hode gozansuke
 お、お そうで ございますか。

I doici tomisane: sosite me:zi sanzju:
 土一 登美さん、 え、 そうして 明治 30

D gone desu
 5年 です。

I sanzju: gone desune e
 35年 ですな、 え。

S hirakanano tomike
 平坂名の トミですか。

D hirakanani kaitoke joi baine honna mon
 平坂名に 書いておけば よい がね、 そんな もの。

S kanzja a arejaro ðaine
漢字は あ あれだろう がね。
(あるだろう?)

D aredo a nna mucukas+i anta noboru cju: zito
あるが あんな むつかしい あんた、 登る という 字と

ucukusii zitode joi bai
美しい 字とで よい のだ。

S aa: N naruhodo
ああ なるほど。

D hajaro (S un)
そうだろう。

S me: zi sanzju joneñjane
明治 34年だね。

D goneñ
5年。

S goneñke
5年ですか。

(12) イツタツタ・キタツタなど

S a ano darejara ne: san dokono hitojaine areo
あ あの だれやら ねえさん どのの 人だね。 あれは、

D ucino ne: san saqoroja
家の よめさん(は) サッポロだ。

S hoqkaidobendemo aru monke
北海道でも ある ものですか。

D hoqkaidobenna aruwa ne: hoqkaidoto kono
北海道では あるわ ねえ。 北海道と この

opicina ðato maziqtoqte nanjara oka: site
森市の のと まじって、 何だか おかしくて

okasite
おかしくて。

S cjoqto okasii tokoe arune
すこし おかしい ところが あるね。

D un hojarone ano sitoo iqtawa tete ju: toqtato
らん そうだろうね。 あの 人は(他人に)行ったわ と いったいと

omooe waga kodomono ju: koto kitaqtawa tete
思えば、 わが 子供の いう こと(を) 来られたわ と

ju: si o: warai suruðaizone aree haqkiri (wa-
いし、 大笑い するのですよ。 あれは はっきり 分

karan benna maz+qte. simote ucino kotobao
らない。 舟が まじって しまっ、 家の(もの)に対する) ことばを(→

ujamo: imini naqte sitoo cjoqto. misa-
ことばが) うやまう 意味に なって、(ほかの)人 を すこし 見さ

ðata: joni sitarine oqcia kabene o: warai
げた ように したりね。 わたしら、 かずで 大笑い

sitoredo. anta imazja sizju: sunða monnoo:
しているが、 あんた、 いまでは 40 すぎた もの

kotobajasakae honna mon hoqtoke tete ucini
ことばだから、 そんな もの(は) 放っておけ と、 家に(→家

o: warai sitoru ðadesuðai kitaqtawane
で) 大笑い している のですよ。 来られたわね

iqtaqtawane te waga ko ju: toru jaro hekano
行かれたわね と わが 子(のことを) している だろう。 ほかの

sita: aree kitaqta kita ðae tete ju: tewa
人(に)ついては あれが 来られた、 (いや)来た のだ。 と いったは

oqsakai e: obande gozaimasute kobanwa
いるから。 ええ オバンデ ゴザイマス(=こんばんは)と(いう)。 こんばんは

cju ðaone obande gozaimasute ju: toru bajasi
という のをね。 オバンデ ゴザイマスと している のだ。

S hosite kitaqtatoka honna ðani ju: ne (D un)
そうして 来られたとか そんな のに いうね。

iqtaqtatoka kitaqtatoka
行かれたとか、 来られたとか(いう)。

D un ju:waine
うん いいです。

S iqta cjuwan baine
(わが子)行ったといけません。

D un iqtaqta kitaqta waja kodemo sonna baizo
うん 行かれた 来られた(と), わが 子でも, そんな のぞ。

(S un) ho:jato okasite okasite naran tete
そうだと おかしくて おかしくて ならない といっ

minna waro: bai (S un)
みな 笑う のだ。

S iqtaqtawane toka kitaqtawane cju:ne (D un)
行かれたわね とか 来られたわね といっね。

I ja: do:mo aridato gozaimasita
やあ どうも ありがとう ございました。

注

- (1) [p.5] anooNはanoよりも親しみが有り、やわらかい表現のように思われる。「あのね」と訳してもよいであろう。
- (2) [p.5] tokini:とtokiniの関係も(1)Nにおなじ。以下どうしたものは省略。
- (3) [p.5] teDajaをtegadaとはいわないが、-jaは-daより親しみのあることは確かである。ただし-ja はあまりいいとはいえない。
- (4) [p.5] 語句の長くなるときは、このようにも切る。以下切りかたは必ずしも揃えていない。
- (5) [p.5] こうしたなくてもよいようなものが多い。しかし、訳にあたるものはつけておく。
- (6) [p.6] -baiは-Daja(のだ)ともいう。
- (7) [p.6] keはkaのいいい形。
- (8) [p.6] ho:ro:である。カナならばホレーとでもしたいところ。以下同様。
- (9) [p.6] (だらうね)と訳したが、(でしょうね)に近い気持の表現。

- 00 [p.7] he:ka:raはhorekara(それから)におなじ。
- 01 [p.8] aNejaNは長男のこと、ここではおばあさんの孫。
- 02 [p.9] otoqan(お父さん)はおばあさんの夫のこと。
- 03 [p.9] kitaqta(来られた)はkifaに対する敬語。
- 04 [p.10] oran:z jaqta(おられなかった)はorandaに対する敬語。
- 05 [p.11] siomaciの町名は志那、字名は子龍と書く。志那町の中心が字子龍である。
- 06 [p.11] 志雄・子龍を「ju:」という。
- 07 [p.11] monosugoiは若年が多い。このおばあさんが使うとは考えなかった。なお、このおばあさんは対話の前半のみあらたまっている。takusan(火山)が後半 jamodo(火山)に変わることからもわかる。
- 08 [p.11] -beは-Dai-Daja(のだ)よりもいいい形。-be(です)と訳しておく。
- 09 [p.13] hitokazukiにたえる荷量(単位)。
- 010 [p.13] ucira 私の家などでの意味。
- 011 [p.14] wasi 男子の自称。ただし、加賀や能登。越中で女子がwa:si。
- 012 [p.14] na:N 女にも、いいえ。
- 013 [p.14] na:N (女にも)、あとのikan(行かない)にかかる。
- 014 [p.14] otoma たとえば、音吉などを心安く「オト」呼ぶ。
- 015 [p.16] kaqta toko 勝った角力取りの出た部高。
- 016 [p.17] ho:ne それね、おれね、例の。
- 017 [p.19] -Dakai(一のか)は「一のかよ」とでも訳すべきか。
- 018 [p.20] ora 自称。口能登や越中の特徴。加賀・越前はura, 奥能登はoreである。
- 019 [p.24] obaba おばあさんをお心安く呼んでいる。
- 020 [p.24] kawara (河原?)人名。
- 021 [p.24] nanmo ほかは「女にも」せずの意味。
- 022 [p.24] area 獅子舞いのハヤシ。
- 023 [p.25] ge:mai 玄米。
- 024 [p.25] si:mai 新米。
- 025 [p.26] ho:zi 真宗寺の報恩講のこと。寺の前に店が並ぶ。
- 026 [p.26] na:imisu(なります)。ていねいな云いかた。金沢が中心である。
- 027 [p.28] ()内は話し手Sのジュステヤに対するおばあさんの発言。
- 028 [p.32] monkaraはmonba: (ものが)であるかも知れない。訳は「ものが」としておく。
- 029 [p.32] miqcaはmikusaの早口と考える。

- ㉔ (p. 33) nanmo なにも・いいえ。nanmo ja は「違う」。
- ㉕ (p. 33) beqejja 別だ・違う・いいえ。能登のベッチャはこの志保町からである。
- ㉖ (p. 33) beqejajaine ㉕のbeqejawaneとおなじく「違います」と訳し得る。
- ㉗ (p. 33) iqpiki 人でも物でも iqpiki。
- ㉘ (p. 36) ja:ja (母) 母はokaka・ka:ka・ja:jaの順にわるくなる。つまり ja:ja は低い階層の母。
- ㉙ (p. 37) ne:sa 家のニックネーム。-sə は-さん。
- ㊱ (p. 38) ancyan (長男)。
- ㊲ (p. 40) gozabo:si 器具の一種。ゴザでつくる。この発音はgozabos+、ゴザボスのように聞かれる。
- ㊳ (p. 45) hesuna nakaro (hesinai ことはないだろう)。hesinai 間違いたいくつだ。
- ㊴ (p. 45) bakaraide (わからなくて)はwakaraideが普通。bakaraide ようは東に接する郷中が本場。
- ㊵ (p. 45) konnaqea (こんなのだ)はkonnaqajaの変形。
- ㊶ (p. 45) rikucuna 「都合よい・便利な」。用途の広いrikucu 方言である。金沢でも使う。
- ㊷b) (p. 46) ()内は話し手Iに対する話し手Sの発音。話し手Dとは関係がない。
- ㊸ (p. 51) bosa:qto ボンヤリ何もしないで。
- ㊹ (p. 52) nan sita (なにをしたということもない、まことにつまらない)の意味。あいさつによく使われる。
- ㊺ (p. 55) kenke—kurenke (くれませんか)
- ㊻ (p. 60) hairo—hojaro (そうだろう)。念を押すとき、対話でよく使う。
- ㊼ (p. 61) ho:no kara. dono ho:no (どの方の)をdono ho:kara (どの方から)にしようとしたためかと思う。
- ㊽ (p. 62) jamodo (たくさん)。これまでは takusan を使っていた。これは後半気楽になった証拠であろうか。
- ㊾ (p. 63) kanazao (金沢)のこと。郡部でのもっと普通の形はkanazao。
- ㊿ (p. 64) hajaro そうだろう。hojaro・hairo が普通。
- ㊿ (p. 65) kodomono ju; kotoはkodomono koto ju; qani (子供のことをいうのに)のようにしないと意味が通じないかと思う。

非 売 品

1968年10月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稻付西山町

